

## 徳島県アリーナ基本計画検討 基礎資料

1. 徳島県アリーナに関するこれまでの経緯	P. 2
2. 徳島県の状況	P. 3
3. アリーナ計画予定地の概況	P. 4
4. 類似関連施設の状況	P. 14
5. 近年のアリーナの整備事例	P. 18
6. 関連まちづくりの動向	P. 27
7. アリーナの動向	P. 31

令和8年3月

徳島県

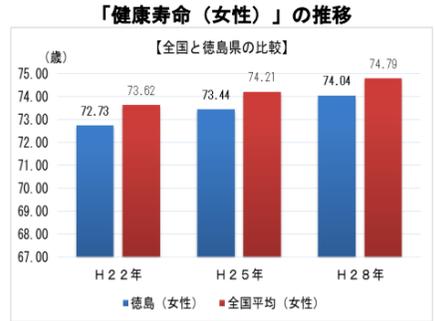
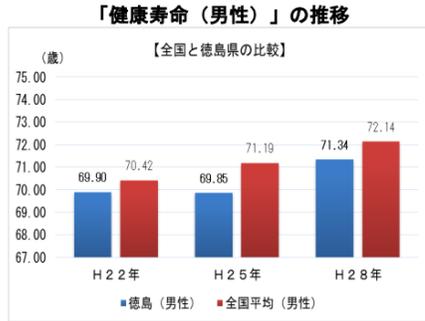
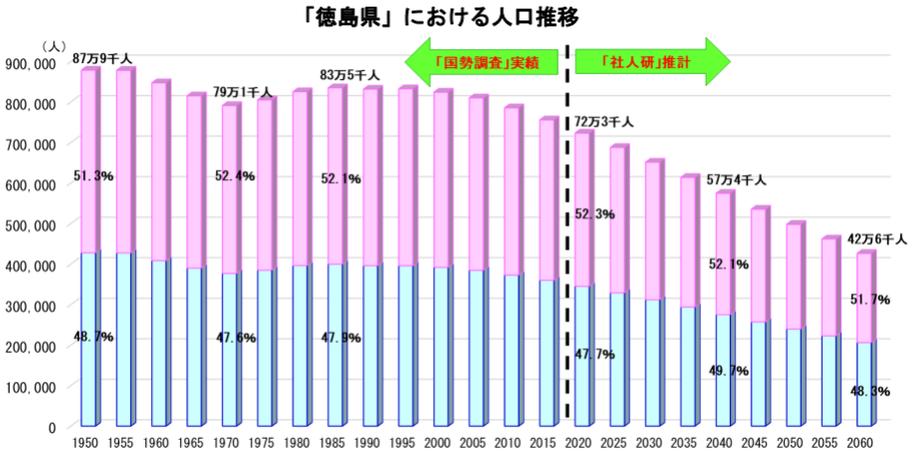
# 1. 徳島県アリーナに関するこれまでの経緯

年度	主な経緯
令和5年度 (2023年度)	<ul style="list-style-type: none"><li>● 6月議会「アリーナが地域にもたらす効果を最大限発揮できるよう、規模や機能、立地場所施設のあり方などについて検討を進める」。</li><li>● 9月議会「新アリーナ整備に向け11月議会に調査費を提案できるよう具体的な検討を進める」。</li><li>● 「県都とくしま・まちづくりグランドデザインイメージ」を公表。「駅北エリア」と「徳島東工業高校・跡地」の2箇所を整備候補地として提示。</li><li>● 11月議会「具体像を早期に示せるよう調査に関する予算を提案したい」。</li><li>● 2月アリーナ整備関連調査等開始。</li></ul>
令和6年度 (2024年度)	<ul style="list-style-type: none"><li>● 6月議会「調査結果等を踏まえ、早期に整備を進めるという観点を忘れることなく候補地の絞り込みを行う」。</li><li>● 第2回 県市WGを開催。県から調査結果を説明。</li><li>● 8月にアリーナ整備関連調査等業務報告「目指すべきアリーナ像」をHPで公表。新たなスポーツ体験シーンの創出や多様な「非日常」エンターテインメントシーンの共創など、「本物」を体感し、本県に豊かさや賑わい、活力をもたらすアリーナを目指す。</li><li>● 9月知事・市長会談にてアリーナ整備について引き続き県市が連携し取り組みを進めることを確認。</li><li>● 第3回 県市WGを開催。</li><li>● 11月議会「基本計画策定に向け、立地候補地の検討を進める」。</li></ul>
令和7年度 (2025年度)	<ul style="list-style-type: none"><li>● 第4回 県市WGを開催。候補地の課題やスピード感について協議。市より「駅北エリアは着工まで最速でも8年程度必要」。これに対し県から「スピード感は大きな判断要素」と説明。</li><li>● 6月に徳島経済同友会など経済5団体より、「早期の候補地選定と整備着手」を求める要望書提出。</li><li>● 6月議会「スピード感を重視し「徳島東工業高校跡地」を候補地とし、徳島市と具体的な協議に入る」。</li><li>● 県から市へ、市有地活用の協力を依頼。その後、県市の実務者間で協議。</li><li>● 徳島市長「聾学校跡の県有地との等価交換などにより活用することが最善である」と表明。</li><li>● 9月市議会「仮に、アリーナを県が整備した際に、市立体育館を併設するだけの土地が残らない場合などは、徳島東工業高校跡地は候補地から除外したい」。</li><li>● 9月議会「市から正式に提案あれば、土地交換等を受け入れたい」。</li><li>● 市より「市有地の活用については、できる限りの協力をする」との回答。</li><li>● 10月三道会より、アリーナ内への「新しい県立武道館」の機能整備に関する要望を受ける。</li><li>● 11月議会、基本計画策定に必要な予算を計上の上、「予算成立後、速やかに基本計画策定に着手し令和8年12月の策定完了を目指す」。</li><li>● また、同議会において、①徳島市との協議状況を報告すること、②基本計画は意見が十分に反映できるよう適切な時期に議会に明示すること、③収支見通しのシミュレーションを議会に提示することとの附帯決議が可決。</li><li>● 2月アリーナ基本計画検討委員会を発足。基本計画の検討を開始。</li></ul>

# 2. 徳島県の状況

## ■ 本県の総人口

- 1950年(S25)の878,511人をピークに減少。2019(R1)年時点約72万人。
- 近年では、年平均約6,500人(自然減:約4,700人・社会減:約1,800人)の人口減少。
- 社人研推計では2040年(R22)に60万人、2050年(R32年)に50万人を下回ると推測。
- 健康寿命(日常生活に制限のない期間の平均)はやや延伸しているものの、男女とも全国平均を下回る。



(出典) 厚生労働科学研究費補助金「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」  
 ※「健康寿命」=日常生活に制限のない期間の平均

## ■ 人口目標

総人口の目標：  
 2060年に、55万人～60万人超の人口水準を確保

目指すべき人口構造：  
 人口ピラミッドのプロポーションを意識した「持続可能な人口構造」を構築

### <自然動態の改善>

- ✓ 「結婚～出産～子育て」のあらゆるステージを応援する社会の実現
- ✓ 徳島発！多様な「働き方改革」の実装
- ✓ アクティブシニアをはじめ、全ての人々が健康で活躍できる社会の構築

### <社会動態の改善>

- ✓ 社会減の主要因である若者の「とくしま回帰」加速

## ■ 財政運営目標(KPI)

財政調整的基金残高※「250億円以上」を確保 **ストック** 未来への投資を見据え安定的な財政基盤を維持

R6末 480億円 (決算) → R7末 432億円 (R7.2月補正後) → R8末 348億円 (R8当初予算編成後)

一般会計県債残高※「4,600億円未満」を維持 **ストック** 県債残高の適正管理

R6末 4,256億円 (決算) → R7末 4,230億円 (見込み) → R8末 4,280億円程度 (R8当初予算編成後)

一般会計プライマリーバランス「黒字」を堅持 **フロー** 23年連続達成見込み

R6 340億円黒字 (決算) → R7 99億円黒字 (R7.2月補正後) → R8 195億円黒字見込み (R8当初予算編成後)

※財政調整的基金残高は、減債基金の「満期一括償還分など、義務的なもの」を除く  
 ※県債残高は、臨財債、国の3か年緊急対策・5か年加速化対策、第1次国土強靱化実施中期計画に係る交付税措置の有利な地方債及び中小企業・雇用対策事業特別会計の一般会計化分は除く

# 3. アリーナ計画予定地の概況

## ① 位置

- 対象敷地は市内中心部に位置し、かつては比較的静かな地域だったが、近年、イオンモール徳島がオープンしたことで商業機能が強化され、人の往来が増加。
- 延伸が予定されている徳島南部自動車道において、徳島沖洲インターチェンジから近く、利便性の高い立地にあることから、今後も交通アクセスの向上が見込まれ、地域への来訪者が増加することが予想される。



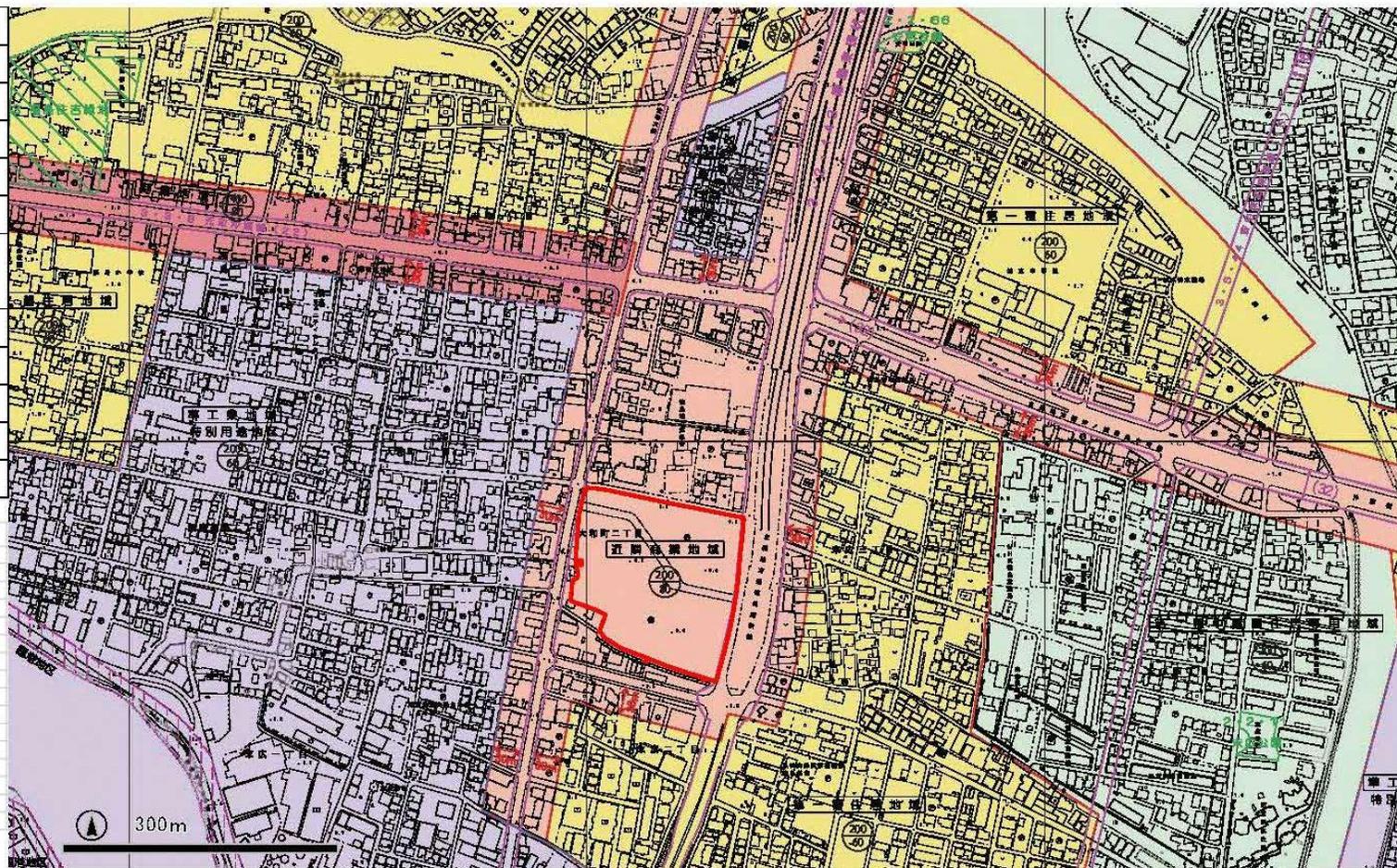
(出典)「地理院地図(国土交通省国土地理院ウェブサイト)」を基に作成

# 3. アリーナ計画予定地の概況

## ② 土地利用

- 計画予定地は、約29,000単位で、用途地域は「近隣商業地域」、指定建ぺい率は80%、指定容積率は200%となっている。

敷地条件	
敷地面積	約29,000㎡
区域区分	都市計画区域内
用途地域	近隣商業地域
指定建ぺい率	80%
指定容積率	200%
斜線制限	道路斜線1:1.5 隣地斜線31m+1:2.5
日影規制	なし(但し、住居系に影を落とす場合は制限を受ける)
絶対高さ	指定なし
壁面後退	指定なし
防火指定	指定なし
その他地域・地区	法22条区域



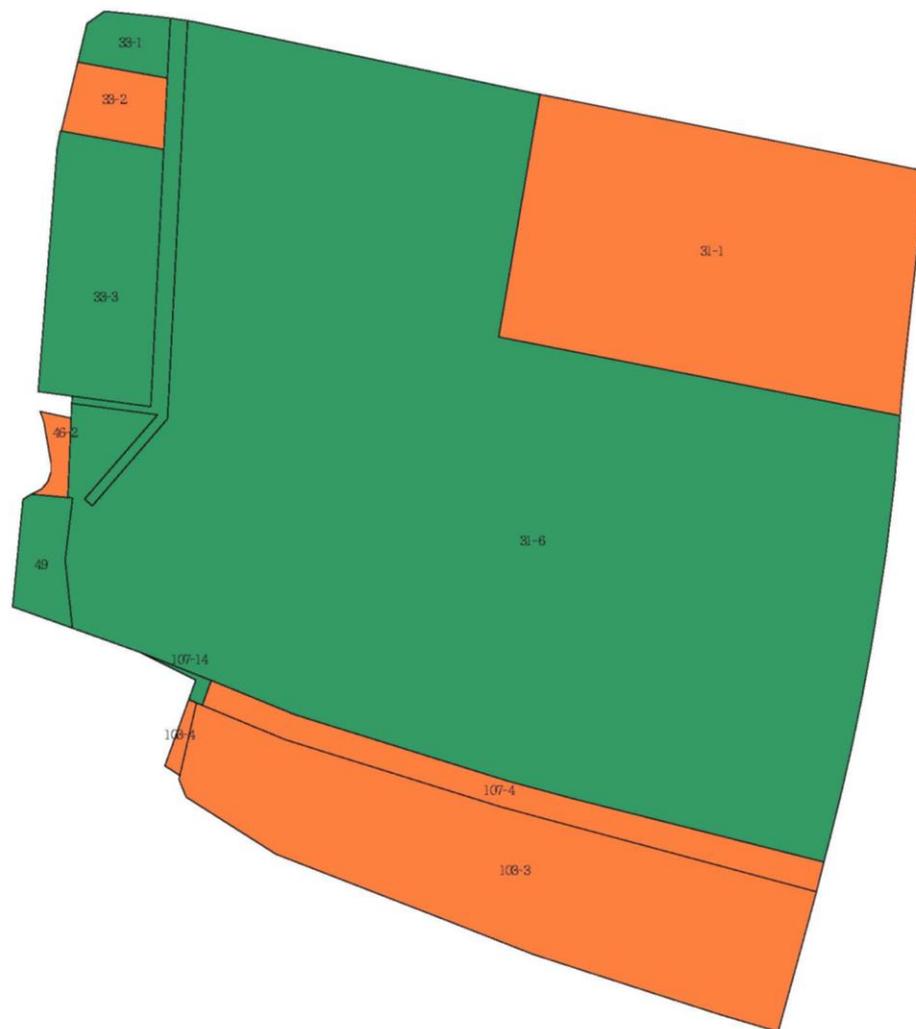
凡 例			
色 別	種 別	色 別	用 途 別
[White]	行政界	[Green]	第一種住居専用地域
[Light Blue]	市街化区域	[Yellow]	第二種住居専用地域
[Light Green]	市街化調整区域	[Light Yellow]	第一種中高層住居専用地域
[Light Blue]	特別用途地区	[Yellow]	第二種中高層住居専用地域
[Light Green]	風致地区	[Yellow]	第一種住居地域 60/200
[Light Green]	駐車場整備地区	[Yellow]	第一種住居地域 60/300
[Light Green]	高度利用地区	[Yellow]	第二種住居地域 60/200
[Light Green]	市街地再開発事業施行区域	[Yellow]	第二種住居地域 60/300
[Light Green]	臨海地区	[Orange]	準住居地域
[Light Green]	防火地域	[Orange]	近隣商業地域 80/200
[Light Green]	準防火地域	[Orange]	近隣商業地域 80/300
[Light Green]	都市計画道路	[Red]	商業地域 80/400
[Light Green]	都市計画公園	[Red]	商業地域 80/600
[Light Green]	都市計画緑地	[Red]	準工業地域
[Light Green]	都市計画鉄道	[Red]	工業地域
[Light Green]	都市計画河川	[Red]	工業専用地域
[Light Green]	土地区画整理事業施行区域	[Red]	
[Light Green]	地区計画区域	[Red]	

(出典) 「地理院地図(国土交通省国土地理院ウェブサイト)」を基に作成

### 3. アリーナ計画予定地の概況

#### ② 土地利用

- 計画予定地は、県有地と市有地が合わさっている状況で、活用にあたっては土地所有関係の整理が必要になる。



所有区分	面積
県有地	約9,000㎡
市有地	約20,000㎡

# 3. アリーナ計画予定地の概況

## ② 土地利用

- 徳島市全体の中で計画地周辺は「地域拠点」と位置付けられ、地域の実情に応じた日常生活に必要な機能や、交通結節点機能の強化に必要な都市機能などを設けることと位置付けられている。
- 現状、高速道路や環状道路等自動車でのアクセス性には比較的恵まれた地域であるものの、鉄道駅等はなく、地域拠点の核の機能が不足。

### 徳島市都市計画マスタープラン(令和5年3月)

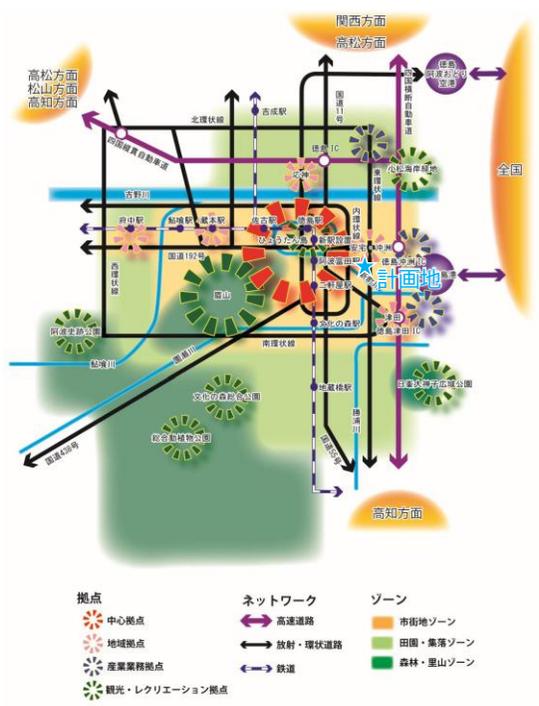
#### 計画地周辺の位置づけ

- 拠点：「**地域拠点**」(「安宅・沖洲」エリア)
- ゾーン：市街地ゾーン

拠点	設定場所	機能
中心拠点	徳島市立地適正化計画に基づく ●徳島駅、阿波富田駅、佐古駅、二軒屋駅 周辺の一帯の範囲	・県の拠点都市に相応しい都市機能 ・まちなか居住を支える日常生活に必要な機能 など
	徳島市立地適正化計画に基づく ●蔵本駅周辺 ●府中駅周辺	・地域の実情に応じた日常生活に必要な機能 ・拠点化を図るために必要な都市機能 など
地域拠点	徳島市立地適正化計画に基づく ●安宅・沖洲 ●津田	・地域の実情に応じた日常生活に必要な機能 ・交通結節点機能の強化に必要な都市機能 など
	徳島市立地適正化計画に基づく ●応神	・地域の実情に応じた日常生活に必要な機能 ・大学を中心とした次世代育成の推進に資する機能 など
産業業務拠点	広域交通へのアクセス利便性が高いインターチェンジ周辺 ●インターチェンジ周辺 ・川内 ・沖洲 ・津田	・都市活力の維持向上を担う産業業務機能 など

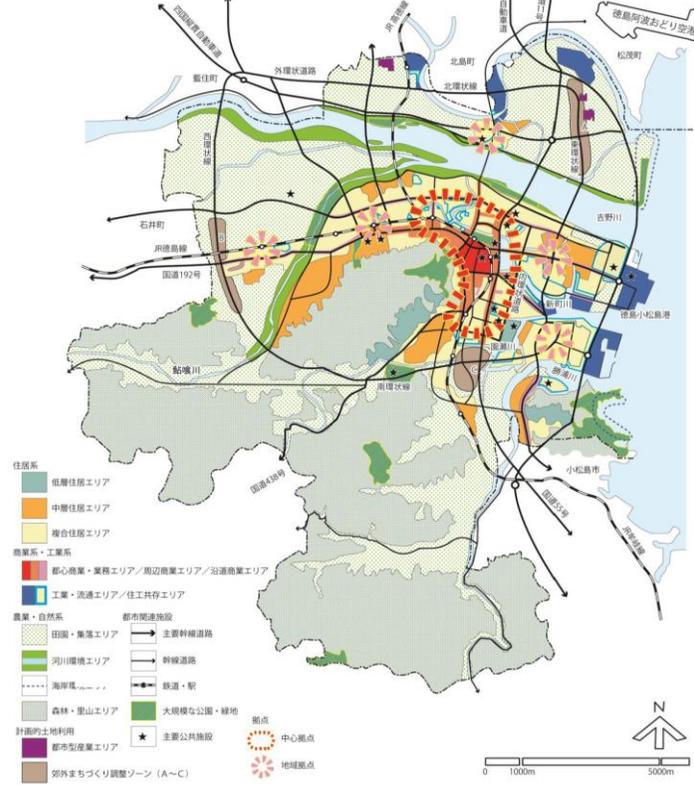
#### 将来都市構造図

- 徳島駅・阿波富田駅・佐古駅・二軒屋駅を中心とする「中心拠点」と複数の「地域拠点」が放射・環状道路でつながるコンパクト・プラス・ネットワークの都市構造が目指されている。



#### 土地利用方針図 ※渭北・渭東・沖洲地域のものは次項

- 計画地は、比較的中央拠点に近接した地域拠点の一つであるが、住工共存した比較的高密度なエリアである。



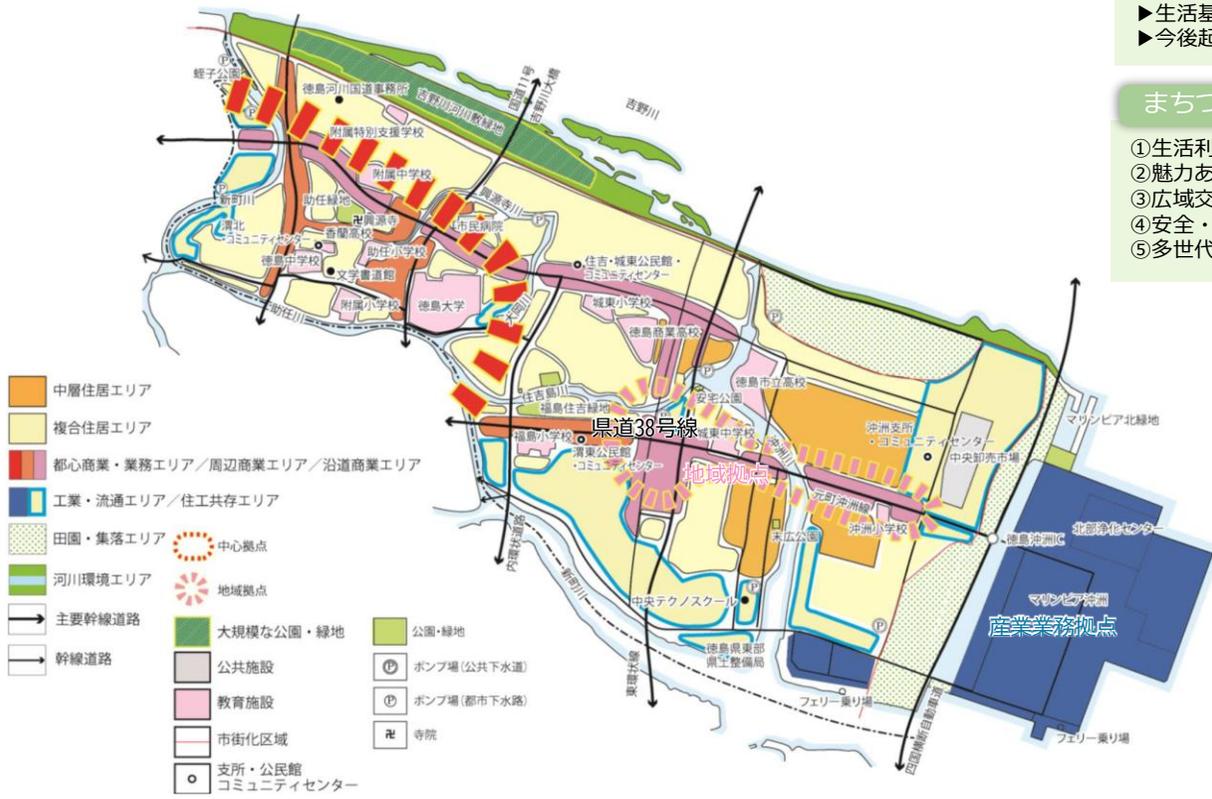
# 3. アリーナ計画予定地の概況

## ② 土地利用

- 渭北・渭東・沖洲地域のまちづくり構想として、県道38号線沿線を中心とした生活サービスの維持・充実や「歩いて暮らせる、歩いて楽しめる」まちづくりが掲げられている。
- また、地域全体でみると、親水空間の整備充実や緑化、海上交通等の活用も謳われており、地域内での回遊性の向上も高まっていくことが期待される。

### 徳島市都市計画マスタープラン(令和5年3月)

渭北・渭東・沖洲地域まちづくり構想図



### 地域の将来像とまちづくりの方向性

将来像 水辺空間と広域交通ネットワークを活かしたまちづくり

- ▶ 地域の特色にあわせた魅力ある水辺空間を整備・保全し、明るく清潔なまちなみを創出することにより歩いて楽しいまちを形成します。
- ▶ 生活基盤やまちなみの整備による快適な住環境を推進します。
- ▶ 今後起こりうる災害への対策を強化し、安全・安心で快適な住環境を整備します。

### まちづくりの方向性

- ①生活利便性の充実都会的な住環境の推進
- ②魅力ある水辺空間を活かした地域景観の創出
- ③広域交通ネットワークと海上交通を活用した地域活性化
- ④安全・安心で、水災害に強いまちづくり
- ⑤多世代交流による地域コミュニティの活性化

### 土地利用の方針

- 県道 38 号線沿道を中心に、生活サービス施設の維持・充実を図り、地域の暮らしを支える拠点の形成を目指します。(地域拠点)

### 都市交通体系の方針

- バス路線の整理・再編の検討→利便性の向上
- 既存の道路空間の再配分→自転車・歩行者空間を確保
- 地域拠点では、「歩いて暮らせる、歩いて楽しめる」まちづくりを推進。

### 公園・緑地・水辺の方針

- 主要幹線道路や住宅地の緑化等を促進
- 新町川・助任川・大岡川等の親水空間の整備充実

### 都市防災の方針

- 公共施設の防災機能の強化、災害に備えた各種備蓄を充実
- 地域ぐるみで防災活動の強化・支援
- 避難場所の確保

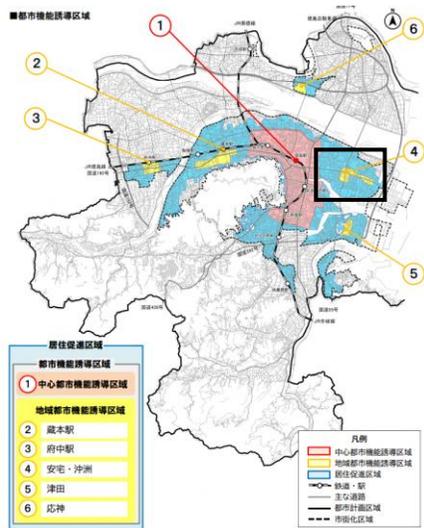
# 3. アリーナ計画予定地の概況

## ② 土地利用(都市機能の誘導方針)

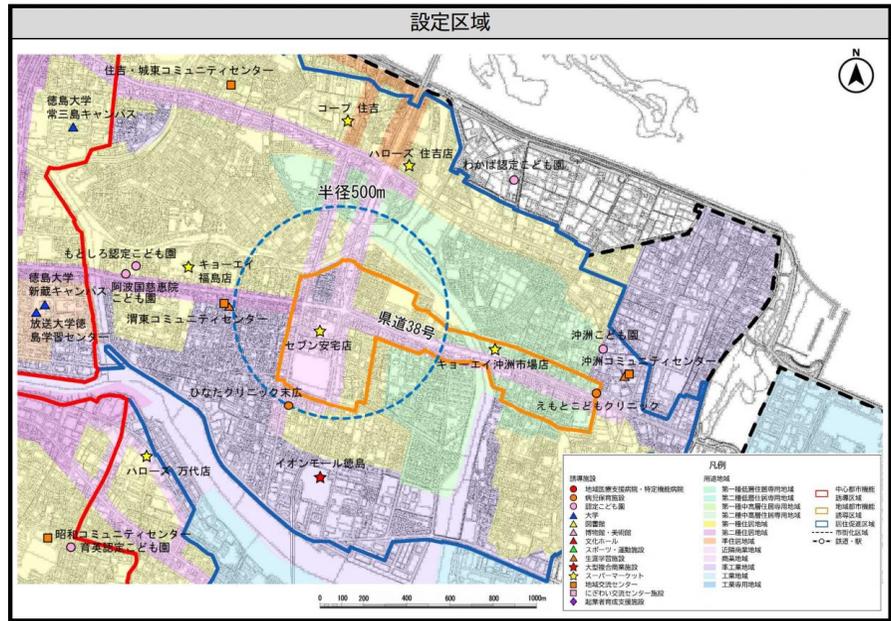
- 地域都市機能誘導区域(安宅・沖洲)における都市機能として、子育て支援機能としての「認定こども園」、教育・文化施設としての「スポーツ・運動施設」が位置づけられている。

### 徳島市立地適正化計画(平成31年3月策定 令和6年3月一部改定)【徳島市】

計画地(安宅・沖洲)は、認定こども園とスポーツ・運動施設が新たに誘導する施設として位置づけられている。



**【地域都市機能誘導区域】安宅・沖洲**  
 ≪目指すまちづくりの将来像≫  
 ・幹線道路沿いにおいて、生活サービス施設の維持・充実を図り、地域の暮らしを支える拠点の形成を目指します。



※誘導施設の状況は、2023年(令和5年)7月時点のもの

誘導施設	中心都市機能誘導区域	地域都市機能誘導区域				
		蔵本駅	府中駅	安宅・沖洲	津田	応神
医療	地域医療支援病院・特定機能病院	◆	◆			
子育て支援	病児保育施設	●		◆		◆
	認定こども園	◆	●	●	●	◆
教育・文化	大学	◆	◆			◆
	図書館	◆				
	博物館・美術館	◆				
	文化ホール	●				
商業	スポーツ・運動施設	◆	◆	●		◆
	生涯学習施設	◆	◆	◆	○	◆
	大型複合商業施設	◆				
交流	スーパーマーケット	◆	○	◆	◆	●
	地域交流センター (主に地域住民が交流などを目的として活動を行うための集会室などを有する施設)(コミュニティセンター)	◆	◆	◆	○	○
起業・創業	にぎわい交流センター施設 (多世代が利用でき、まちのにぎわいを生み出す、文化、交流、健康、子育て支援、情報発信などの多様な機能を持つ延べ面積が3,000㎡以上の複合施設)	◆				
起業・創業	起業者育成支援施設 (ベンチャー企業や起業家の育成、創業支援などのサポート機能を持つ施設)(独自設定)	◆				●

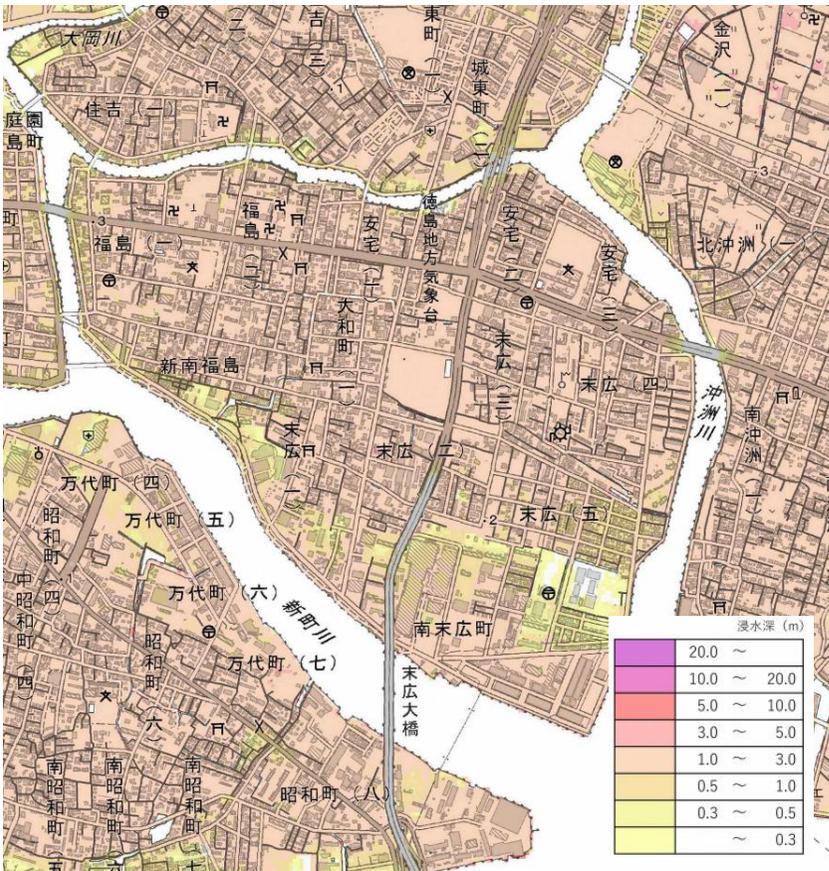
※●印:新たに誘導する施設  
 ※◆印:維持・充実する施設  
 ※○印:都市機能誘導区域に近接しており、補完されている施設(建替などの際に区域内への立地を誘導する施設)  
 ※赤字:都市構造再編集中支援事業の補助対象(他の補助金などの対象を除く)  
 ※青字:都市再生整備計画事業の補助対象(基幹事業)

# 3. アリーナ計画予定地の概況

## ③ 防災関連

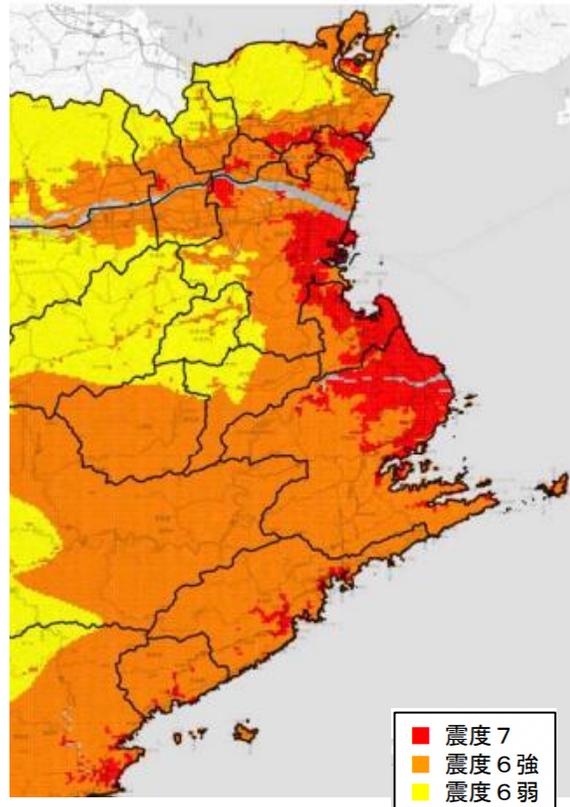
- 令和7年3月に内閣府が公表した「南海トラフ巨大地震被害想定」を踏まえ、本県でも津波浸水想定・被害想定について更新・公表している。
- アリーナ計画予定地について、「1m以上3m未満」の津波浸水想定、「想定震度7」、「液状化危険度は極めて高い」となっている。

津波浸水想定図



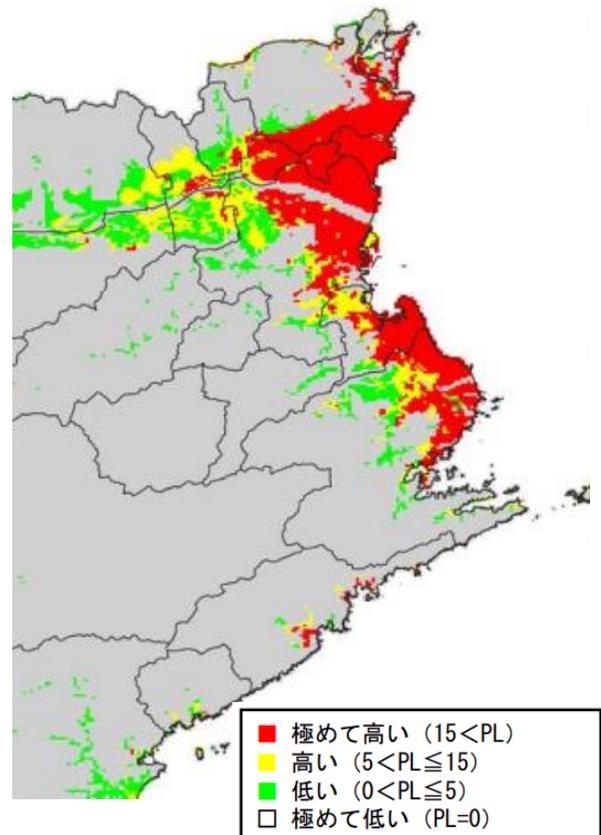
出所:徳島県津波浸水想定について(R7.9)

震度分布



出所:徳島県南海トラフ巨大地震被害想定公表について(R8.2)

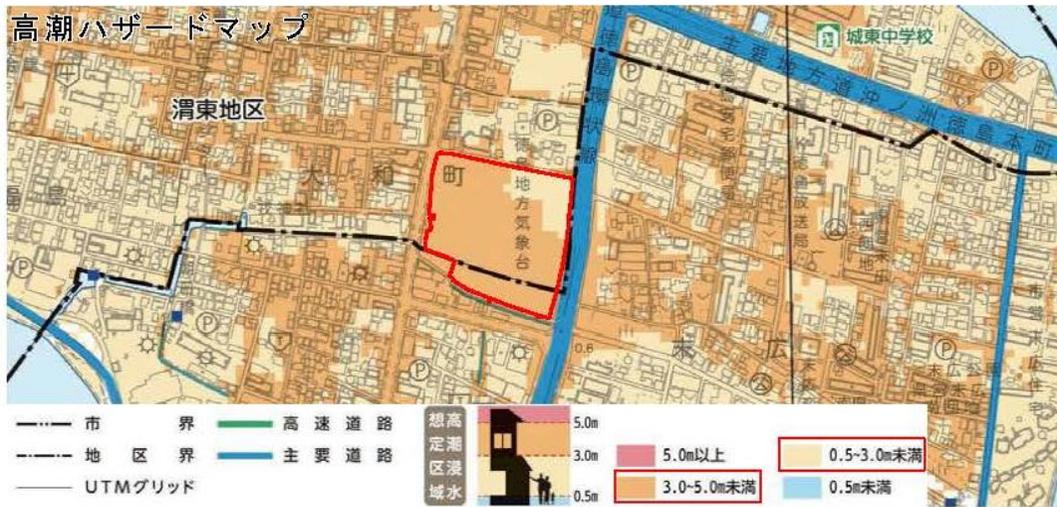
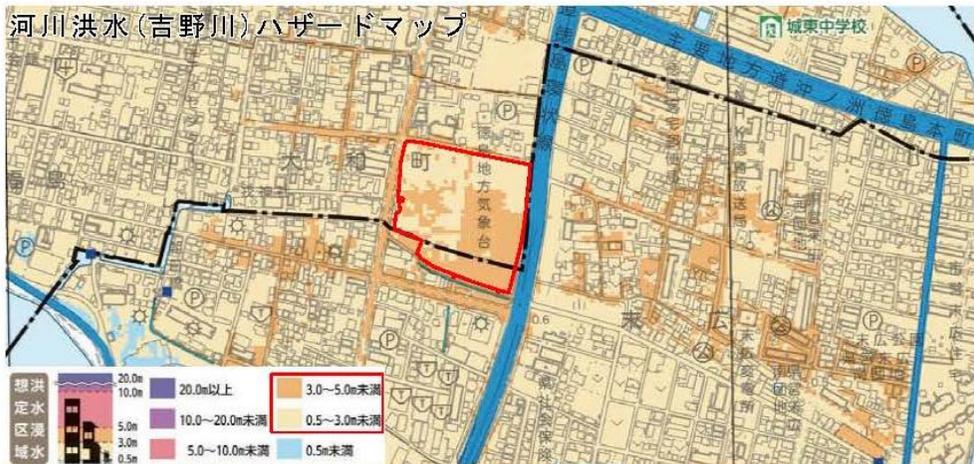
液状化危険度



# 3. アリーナ計画予定地の概況

## ③ 防災関連

- ハザードマップにおける予定地の最大浸水深は、5.0mである。  
 (吉野川洪水:0.5m ~ 5.0m 未満、鮎喰川洪水:0.5m 未満、高潮浸水:0.5m ~ 5.0m 未満)



出所：徳島市 洪水ハザードマップ・高潮ハザードマップ

# 3. アリーナ計画予定地の概況

## ④ 交通関連

- 基盤整備の方針としては、徳島東環状線が計画地の東側で整備されており、区域の骨格として機能する幹線道路として位置づけられている。
- また、県南部へ向けて高規格道路の延伸が行われる等、広域アクセスが向上している。

### 徳島東部都市計画区域マスタープラン(令和5年3月)【徳島県】

#### 広域根幹的な交通体系:

既存の神戸淡路鳴門自動車道、徳島自動車道、高松自動車道及び徳島南部自動車道に加え、徳島南部自動車道の南伸や阿南安芸自動車道など、広域的な都市軸の整備を促進し、重要港湾徳島小松島港及び橋港並びに徳島飛行場(徳島阿波おどり空港)の交通・物流拠点を結ぶことにより、陸・海・空の広域交通体系の連携強化を図る。これらの広域都市軸と連動して、本区域の骨格として機能する幹線道路として、一般国道11号、55号及び192号並びに徳島環状道路などの整備を図る。



図2-2 徳島東部都市計画区域の都市構造図

# 3. アリーナ計画予定地の概況

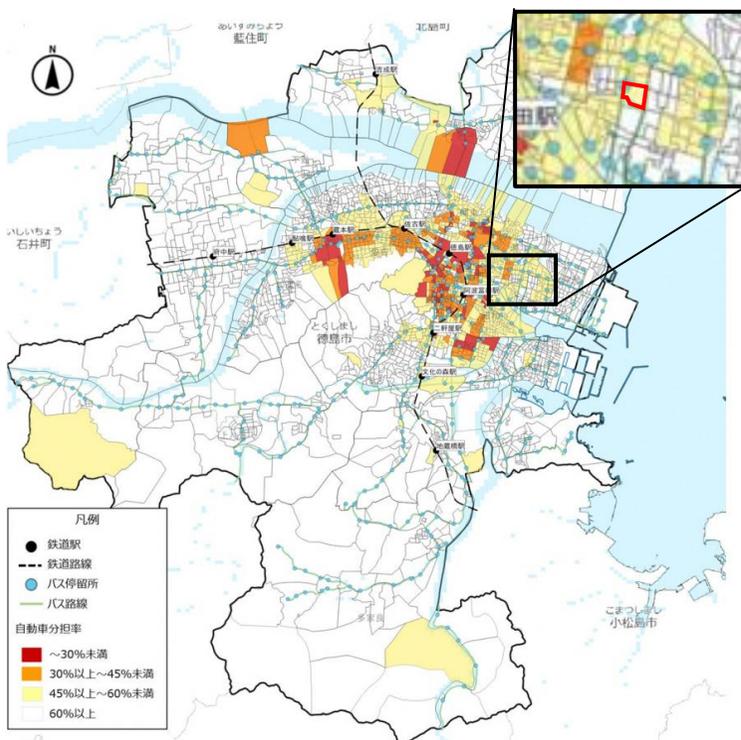
## ④ 交通関連

- 計画地は、自動車の分担率が45%以上～60%未満の区域にあたるが、隣接地は60%以上の区域であるなど、自動車への依存度が高い地域であることが推察される。
- また、バスを中心とした公共交通サービスの水準について、本数・バス停位置ともに恵まれているとは言えない状況である。

### 徳島市地域公共交通計画(令和6年3月)

#### 自動車分担率(町丁・字別)

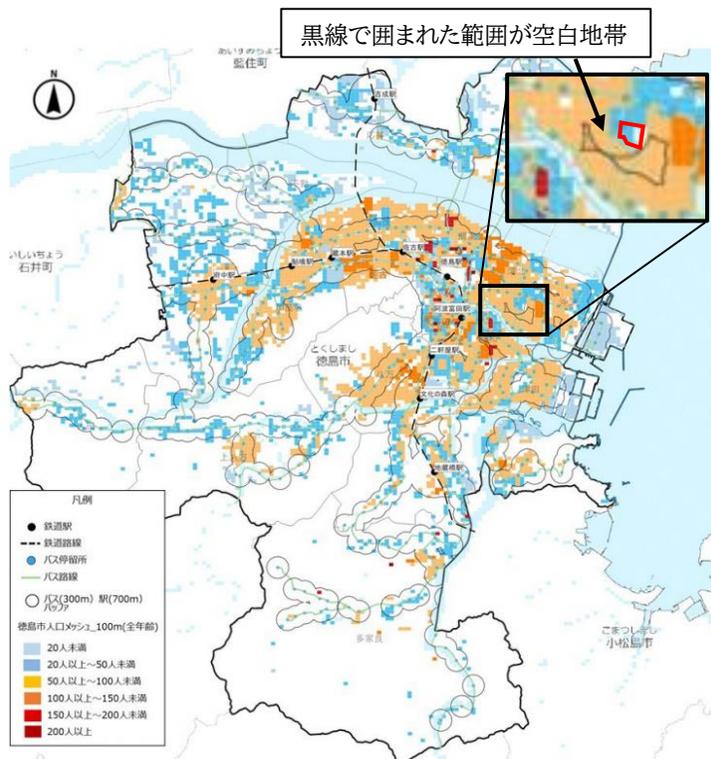
計画地の自動車分担率は45～60%となっているが、隣接する町丁では60%以上となっている。



出典:国土数値情報、国勢調査(令和2年)小地域集計を加工して作成

#### 公共交通の徒歩圏域と人口分布

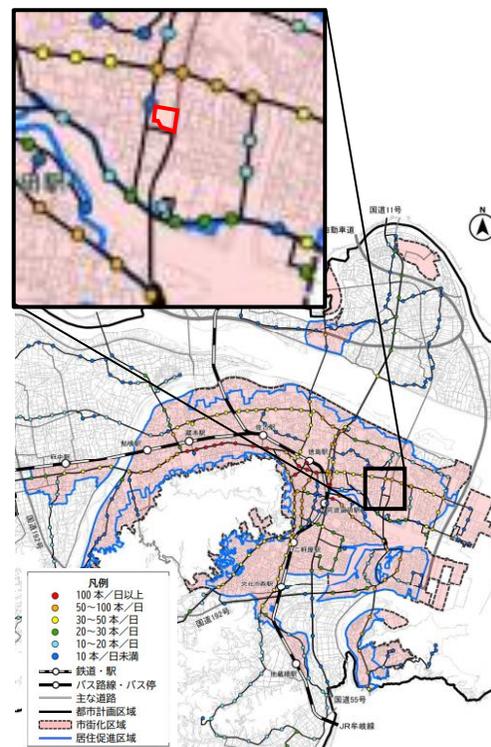
計画地の周辺には、公共交通の空白地帯(路線バス停から300m以内でない)となっているエリアがある。



出典:国土数値情報、徳島市資料(令和2年)を加工して作成

#### バス停別の運行本数(片道)

計画地の最寄りのバス停は1日10本未満となっている。



# 4. 類似関連施設の状況

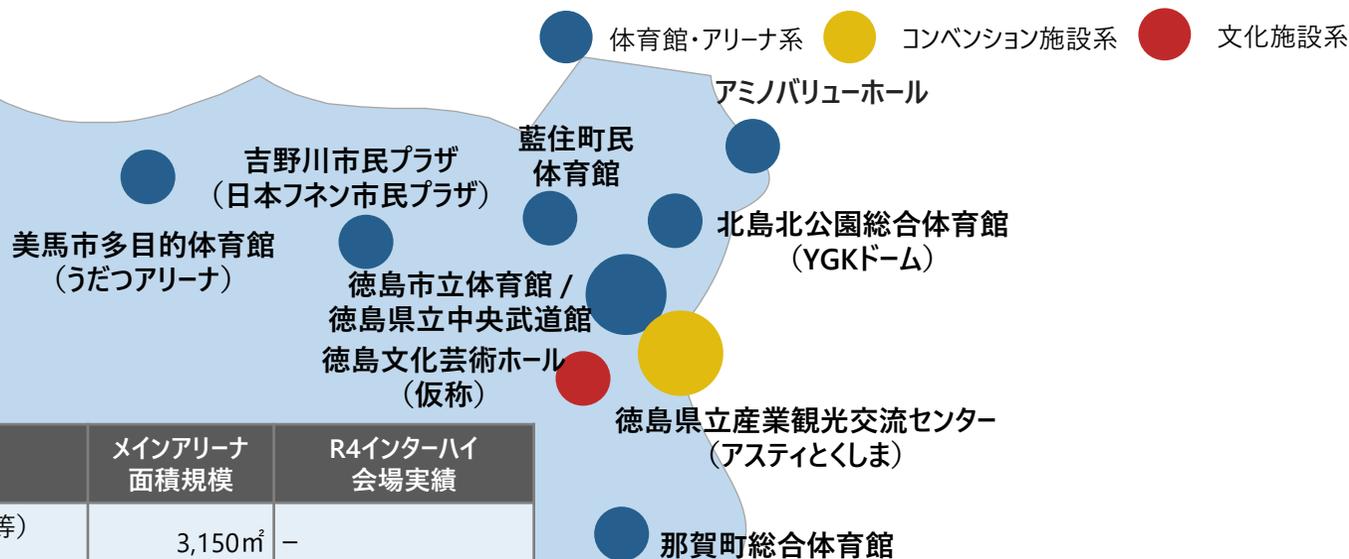
## ① 県立施設の状況

	アスティとくしま (徳島市内)	アミノバリューホール (鳴門市内)	新ホール(藍場浜公園西エリア) ※公募スケジュール以外の内容は、 新ホール早期整備プラン段階(R7.4)
竣工年(築年数)	開館:1993年10月20日(築33年)	竣工:1990年11月(築36年)	令和7年度中 設計事業者の公募開始 令和8年夏頃 設計事業者の選定及び結果公表 ・設計期間:約1年6ヶ月 ・施工期間:約2年10ヶ月(本体建設工事)
建築面積・延床面積	延床面積:約22,000㎡ 1階アリーナ:3,000㎡ 2階スタンド:1,100㎡	鳴門・大塚スポーツパーク内 延床面積:6,553㎡(3階建て) メインアリーナ:2,500㎡ サブアリーナ:836㎡	敷地面積:約6,600㎡(概算値) 延床面積:1万1,000~12,000㎡程度 (調査モデルプランを参考にした概算値)
メインホールの 規模・客席数	最大5,000人	1,500人	1,500席程度が下限
駐車場台数	534台 (他に、多目的広場の駐車場:乗用車150台、大型バス約40台)	第1~第5駐車場で約500台(大型8台、障がい者用19台) ※第5駐車場は工事中	渋滞対策と施設の利用促進の両面の観点に配慮して、 自家用車による来館のニーズに対応 ※主催者駐車場等あり
諸室構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多目的ホール</li> <li>●多目的広場 3,150㎡(48.5m×65m)</li> <li>●会議室・特別室 300人(特別会議室:シアター) 150人(会議室:シアター) 10人(特別室:応接セット)</li> <li>●パーク テレコメディア 144人(テレコメディア ホール:車イス2人含む) 150人(会議室:シアター)</li> <li>●飲食サービスコーナー</li> </ul>	(1階) <ul style="list-style-type: none"> <li>●事務室、応接室、役員室、選手控室、医務室、トレーニング室、器具庫、体力相談室</li> </ul> (2階) <ul style="list-style-type: none"> <li>●視聴覚室、資料室</li> </ul> (3階) <ul style="list-style-type: none"> <li>●研修室、放送室、指導員室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●舞台 主舞台:18m×18m程度 (興行きはあわぎんホールの約1.5倍) 袖舞台、音響反射板、迫り・オーケストラピット等の機能あり</li> <li>●楽屋</li> <li>●リハーサル室</li> <li>●スタジオ・活動室</li> </ul>
直近の主な利用実績 (イベント・コンサート等)	2025冬~2026年春 <ul style="list-style-type: none"> <li>●徳島ガンバロウズホームゲーム</li> <li>●徳島ヴォルティス キックオフファンミーティング</li> <li>●SV.LEAGUE ジェイテクトSTINGS主催ゲーム</li> <li>●徳島アーバンスポーツフェスタ</li> <li>●東京スカパラダイスオーケストラ HALL TOUR「47」</li> <li>●福山雅治コンサート</li> <li>●仮面ライダースーパーライブ</li> <li>●中古車展示即売会</li> <li>●とくしま就職ナビ・企業・団体就職ガイダンス</li> <li>●テレビトクシマ35周年感謝祭</li> <li>●外科学会・学術集会 ほか</li> </ul>	2025冬~2026年春 <ul style="list-style-type: none"> <li>●徳島ガンバロウズホームゲーム</li> <li>●四国高校ハンドボール選抜大会</li> <li>●県高校バレーボール選手権大会</li> <li>●高校卓球選手権大会</li> <li>●四国中学選抜卓球大会</li> <li>●ハンドボール小学生近県大会</li> <li>●西日本ジュニアオープンバドミントン(小学生)</li> <li>●バレーボールオープン戦</li> <li>●ハンドボール全国クラブ選手権四国予選</li> <li>●オープンバドミントン大会</li> <li>●ASAトライアングルバスケットボール大会 ほか</li> </ul>	—

# 4. 類似関連施設の状況

## ② 徳島県における主要施設の状況

- 徳島県内では、総合コンベンション施設である「徳島県立産業観光交流センター(アスティとくしま)」が収容人数規模としては最大で、多くの施設は1,000人未満~1,500人収容の施設である。いずれも、各屋内スポーツの県大会予選の会場等、県内各地域の重要な地域スポーツ活動の拠点でとなっている。
- 一方、新・B.LEAGUEのトップリーグの施設水準(B.PREMIER基準)を満たし、プロスポーツ利用や全国大会等の広域大会利用のほか、コンサート・ライブやMICE等の各種エンターテイメント利用を積極的に誘致可能なアリーナはない。



施設	収容人数	メインアリーナ 面積規模	R4インターハイ 会場実績
徳島県立産業観光交流センター (アスティとくしま)	最大5,000人収容 (コンサート時等) * スポーツ利用時等: 4,000席	3,150㎡	-
徳島市立体育館 (とくぎんトモアリーナ)	最大4,200人収容 (うち2F固定席: 1,550席)	1,495㎡	・バレーボール ・バドミントン、弓道
北島北公園総合体育館	1,406席 (固定席移動席の合計)	1,540㎡	・バレーボール
アミノバリューホール	1,500人	2,500㎡	・バレーボール ・バドミントン
藍住町民体育館	約800人 (観客席: 約530席)	1,650㎡	-
吉野川市民プラザ	750席	1,530㎡	・バドミントン
美馬市多目的体育館	約2,200席 (うち固定席: 706席)	1,543㎡	-
那賀町総合体育館	308席	1,490㎡	- (R6.4.開業)

# 4. 類似関連施設の状況

## ③ 徳島県および四国圏における主要アリーナ等(収容人数4,000人以上)の立地状況

- 四国圏では、総合体育館機能を有した施設や多目的利用に対応したコンベンション施設が各県にみられ、プロスポーツ利用やライブ・コンサート利用、MICE等の各種エンターテイメント利用を想定した「アリーナ」は限定的となっている。
- 一方、香川県では新たに10,000人規模のアリーナが整備されており、本県で新たに整備を検討するアリーナとの競合となる可能性がある。



# 4. 類似関連施設の状況

## ④ 関西・中国圏における主要アリーナ等(収容人数4,000人超)の立地状況

- 本県からのアクセスが良く、来訪客の往来が見込める中国・関西圏の自治体では、5,000人規模以上のアリーナ等が多数立地しており、10,000人規模～超の大規模アリーナ等の整備もみられているため、広域的な競合環境は厳しさを増しているものと考えられる。

### ● 岡山市総合文化体育館

\* 収容人数：最大8,000人収容可

### ● 広島県立総合体育館 (グリーンアリーナ)

\* 収容人数：固定席約4,800席  
最大10,000人収容可

### ● 岡山市総合展示場 (コンベックス岡山)

\* 収容人数：最大4,300人収容可

### ● 神戸総合運動公園体育館

(グリーンアリーナ神戸)

\* 収容人数：4,852人  
\* 主な利用：各種屋内スポーツ利用中心

### ● GLION ARENA KOBE (新神戸アリーナ)

\* 収容人数：最大10,000人収容可  
\* 主な利用：プロスポーツ、コンサート、MICE利用

### ● 神戸ポートアイランドホール (ワールド記念ホール)

\* 収容人数：最大8,000人収容可  
\* 主な利用：各種MICE利用中心  
コンサート・スポーツ利用可 /等

### ● 舞洲アリーナ (おおきにアリーナ舞洲)

\* 収容人数：7,056人  
\* 主な利用：B.LEAGUE公式戦会場 (大阪エヴェッサホーム)  
各種屋内スポーツ利用中心、イベント等利用可能

### ● 大阪府中央体育館 (Asueアリーナ大阪)

\* 収容人数：10,000人  
\* 主な利用：B.LEAGUE公式戦会場 (大阪エヴェッサホーム)  
各種屋内スポーツ利用、武道全国大会等利用

### ● 大阪府立体育会館 (エディオンアリーナ大阪)

\* 収容人数：10,000人  
\* 主な利用：B.LEAGUE公式戦会場 (大阪エヴェッサホーム)  
V.LEAGUE公式戦会場

### ● 大阪府立門真スポーツセンター (ラクダブドーム)

\* 収容人数：8,000人  
\* 主な利用：アイススケートリンク・プールとの機能転用による供用

### ● 大阪城ホール (大阪城国際文化スポーツホール)

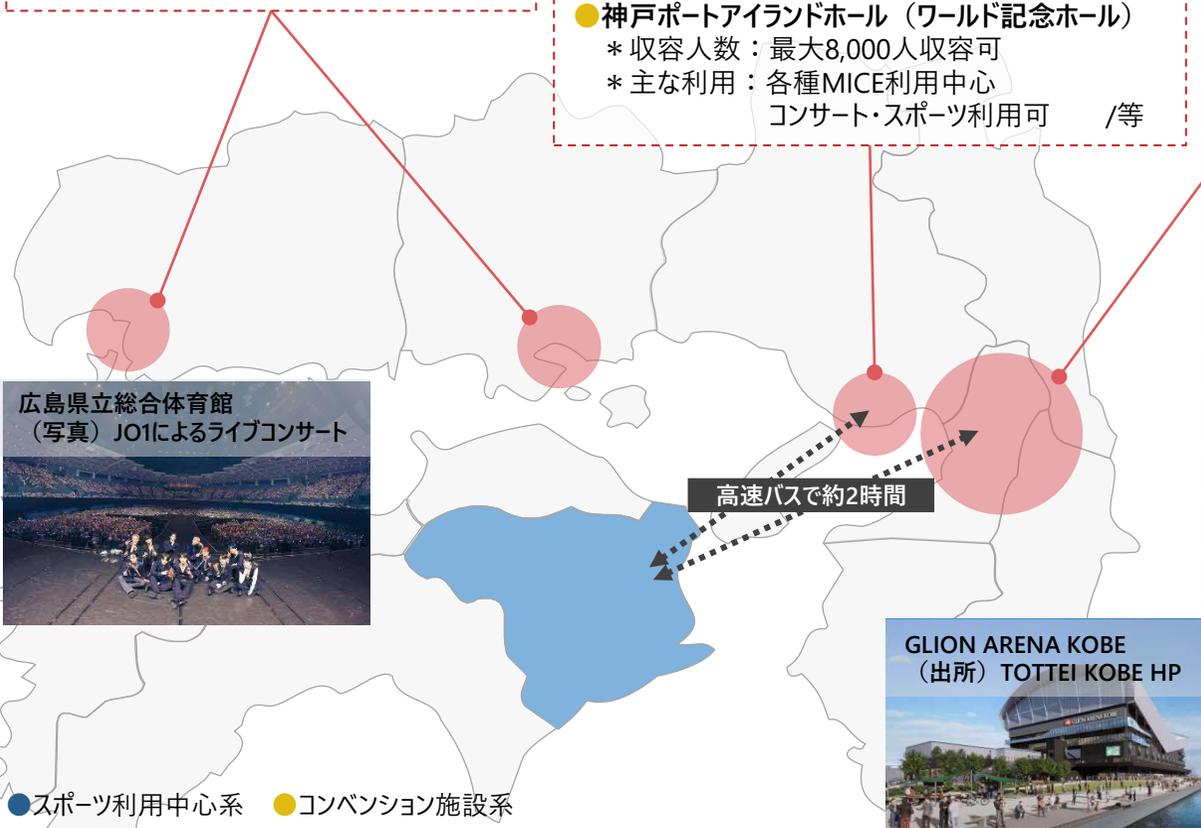
\* 収容人数：16,000人  
\* 主な利用：ライブ・コンサート、芸能利用中心  
MICE利用、スポーツ利用等可能

### ● グランキューブ大阪 / ● インテックス大阪 (MICE施設)

\* 主な利用：展示会・見本市(EXPO)、学会利用中心

### ○ 万博公園駅前アリーナ (仮称) ※開業前

\* 収容人数：18,000人規模想定  
\* 主な利用：プロスポーツ国際大会招致、大規模コンサート利用  
商業、ホテル、オフィス、住宅等の複合施設 /等



# 5. 近年のアリーナの整備事例

## ① OPEN HOUSE ARENA OTA(太田市総合体育館)(スポーツゲーム5,000席規模)

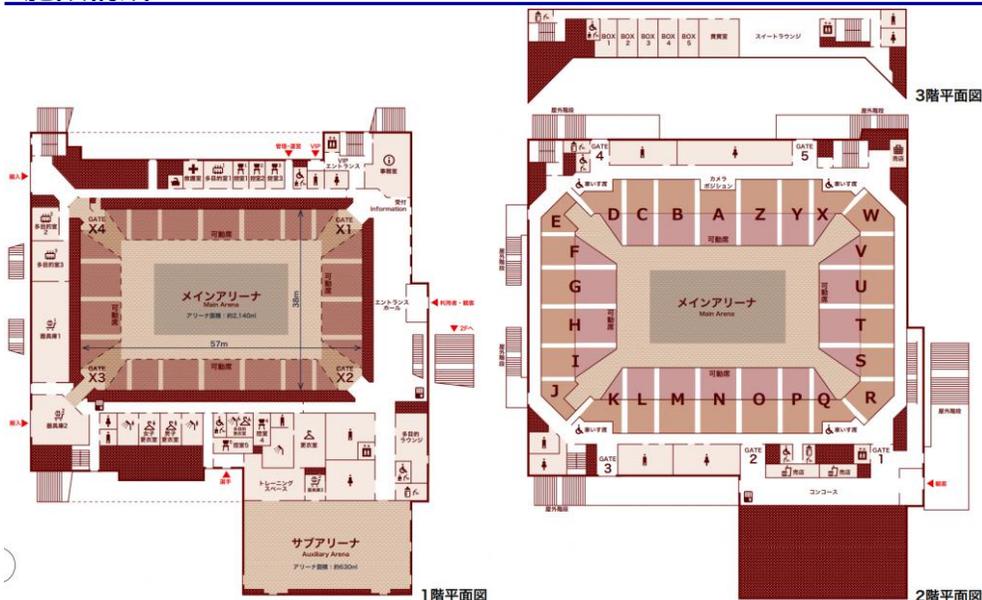
### 施設概要

事業手法:DB/指定管理  
竣工:2023年  
敷地面積:約158,800㎡(公園面積)  
延床面積:約10,600㎡  
駐車場数:約1,480台(公園内合計)  
主要機能:メインアリーナ、サブアリーナ、VIPBOX、スイートラウンジ  
整備費(実績値):約82.5億円  
工事費単価反映試算:約120億円  
施設管理運営者:株式会社群馬シティマネジメント  
ホームチーム:群馬クレインサンダーズ  
スポーツ以外の用途:ライブ、式典、展示会、地域イベント

### アリーナまちづくりの特長・ポイント

バスケットを通じたまちづくり、行政・クラブ・企業が三位一体(官民一体)で築く地域の未来人口22万人の太田市にBリーグ基準(B1ホームアリーナライセンス基準)を満たす最適な規模のサステナブルなアリーナを実現した。スポーツを通じた新たな地域価値創出による賑わい拠点、世代を超えて集う交流拠点として、まちづくりの核となる「地域共創型アリーナ」としての新たなカタチを創出している。

### 施設構成



### 外観写真



### 内観写真



# 5. 近年のアリーナの整備事例

## ① OPEN HOUSE ARENA OTA (太田市総合体育館)(スポーツゲーム5,000席規模)

### 【アリーナまちづくりの特長・ポイント】

#### ■ 市民の「する」スポーツ・健康づくりの活動拠点として機能

- メインアリーナもアマチュア利用を可能とし、バスケットボールやバドミントンをはじめとした、市民の「する」スポーツや健康づくりの活動拠点として機能
- 太田市運動公園内に位置し、公園内の他運動施設と一体的に利活用されたスポーツイベント等も開催

#### ■ 日常の交流を促す施設配置・動線計画と事業展開

- イベント利用や3X3がプレー可能なオープンスペースと隣接する園路とサブアリーナがシームレスに配置計画され、日常的な来訪・交流促進に寄与
- 公園内の通路や広場の整備を行い施設のフラット化を図り、またウッドデッキを有する花壇の設置などを行って利用者が安全・安心に利用できる施設となるよう工夫

#### ■ オープンスペースを活かした事業展開

- 試合日を中心にクラブと連携したマルシェを開催し、賑わい創出にも注力  
- 水曜夜ゲーム時には「ナイトマルシェ」を開催。地元事業者中心に出店

#### ■ 防災拠点機能

- 600人分の食料品やブランケットを備蓄し、災害時に1,000人程度の避難者受入可能
- 大地震に対する十分な構造強度であり、インフラ遮断時にも3日程度施設機能維持可能

#### ■ 環境配慮

- オープンハウス・V-Power・おた電力の連携事業によりホームゲーム時に再生エネ電力100%利用

▼3X3コート



▼OTAマルシェの開催の様子



▼周辺地図 (出所：google mapより)



(出所) オープンハウスアリーナ太田公式HP、太田市資料、梓設計事務所公表資料等を基に作成

# 5. 近年のアリーナの整備事例

## ② あなぶきアリーナ香川(香川県立アリーナ)(スポーツゲーム6,000~7,000席規模※固定席5,000人)

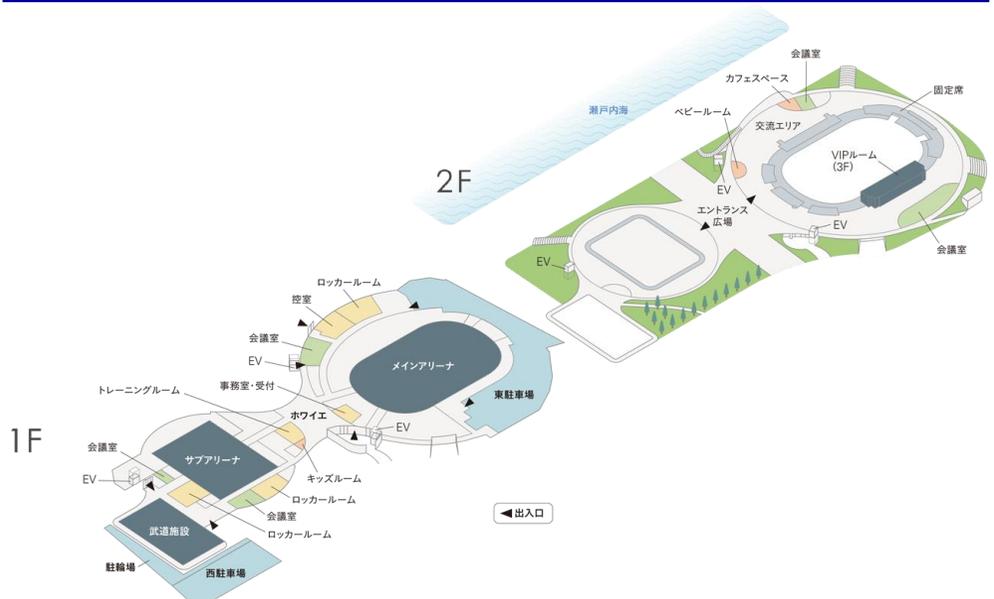
### 施設概要

- 事業手法: 従来方式/指定管理
- 竣工: 2024年
- 敷地面積: 約31,350㎡
- 延床面積: 約29,000㎡
- 駐車場数: 約100台(公共交通推奨)
- 主要機能: メインアリーナ、サブアリーナ、武道施設、交流エリア
- 整備費(実績値): 約225億円
- 工事費単価反映試算: 約285億円
- 施設管理運営者: 香川アリーナコンソーシアム
- ホームチーム: 香川ファイブアローズ
- スポーツ以外の用途: コンサート・ライブ、展示会、ファッションショー、地域イベント

### アリーナまちづくりの特長・ポイント

最大1万人を収容する県内初の本格アリーナ(中四国最大級の多目的交流拠点)として、大規模な音楽ライブやスポーツイベント、MICE(国際会議等)を誘致し、地域に新たな人の流れを生み出します。JR高松駅や高松港に隣接するウォーターフロントの立地を活かし、周辺施設と連携した回遊性の向上や、日常的なイベント開催による「賑わいの核」を目指している。

### 施設構成

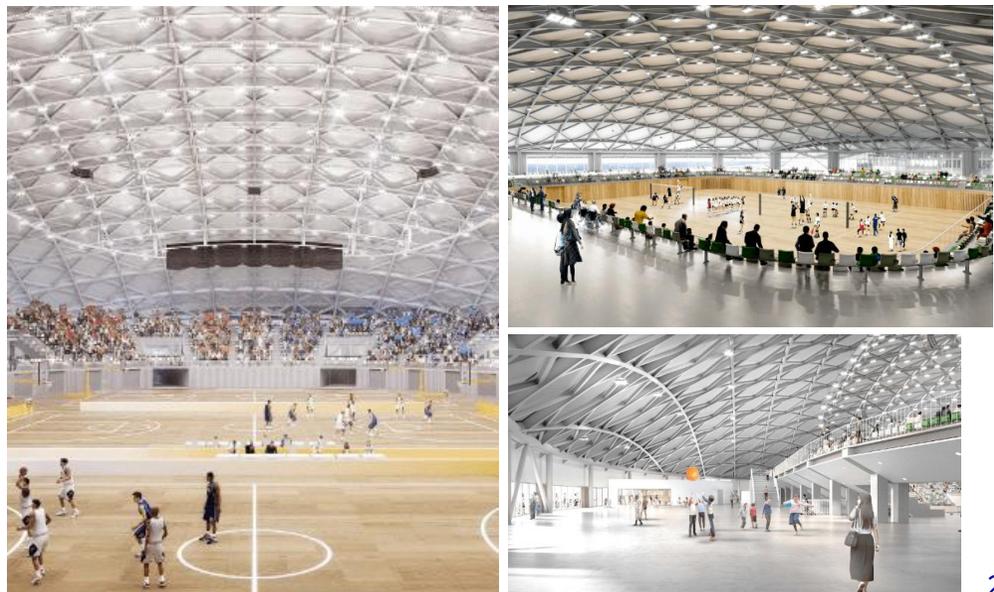


### 外観写真

出典:あなぶきアリーナ香川ホームページ



### 内観写真



## 5. 近年のアリーナの整備事例

### ② あなぶきアリーナ香川(香川県立アリーナ)(スポーツゲーム6,000~7,000席規模※固定席5,000人)

#### 【アリーナまちづくりの特長・ポイント】

##### ■ サンポートエリアと連携したイベント開催

- アリーナが立地するサンポートエリアのオープンスペースを活用したマルシェ等と連携したイベントを実施
- サンポートの賑わい創出を目的としたプロジェクションマッピングの実施

##### ■ 公共交通利用への誘導と街なかへの回遊を促す特典の設定

- 周辺のホール等と連携し、公共交通利用やサンポートエリアでの滞在・消費を促すキャンペーンを実施
- 「サンポートスマートアクセス応援施設」...公共交通で来場+アンケート回答者を対象に、サンポートエリアの施設・お店で割引等の特典を受けられる
- 「まちなかアリーナ応援店」...アリーナのイベント参加者を対象に、街なかの店舗で割引等の特典を受けられる
- 「まちなかアリーナ応援パーキング」...アリーナのイベント参加者を対象に、指定駐車場の駐車料金を割引

##### ■ 防災拠点機能

- 災害時には、救援物資の一次(広域)物資拠点支援施設としての役割を担う(基本計画より)

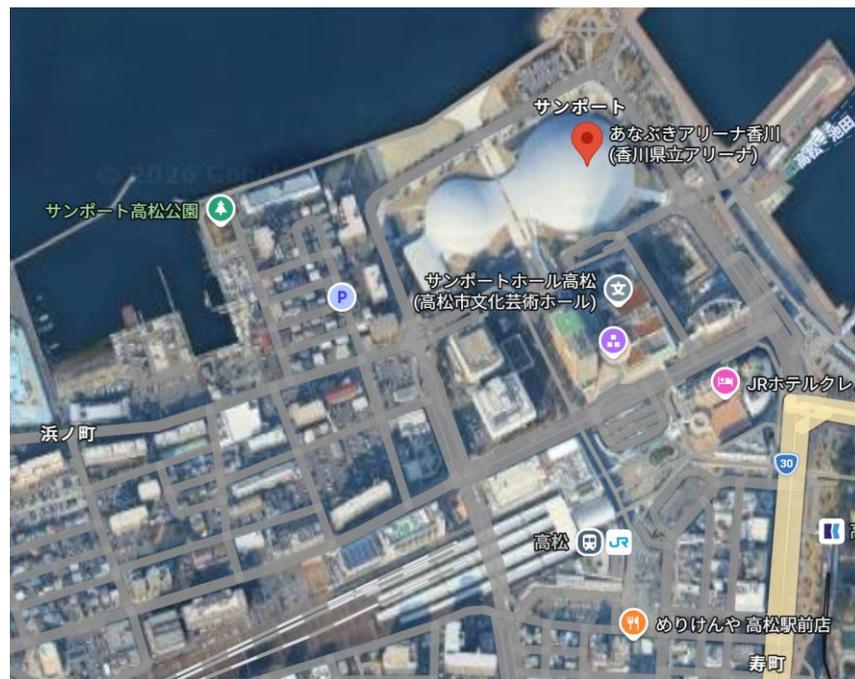
#### ▼プロジェクションマッピングの様子



#### ▼マルシェ



#### ▼周辺地図(出所: google mapより)



(出所) あなぶきアリーナ公式HP、香川県資料等を基に作成

# 5. 近年のアリーナの整備事例

## ③ 沖縄サントリーアリーナ(沖縄アリーナ)(スポーツゲーム8,000~10,000席規模)

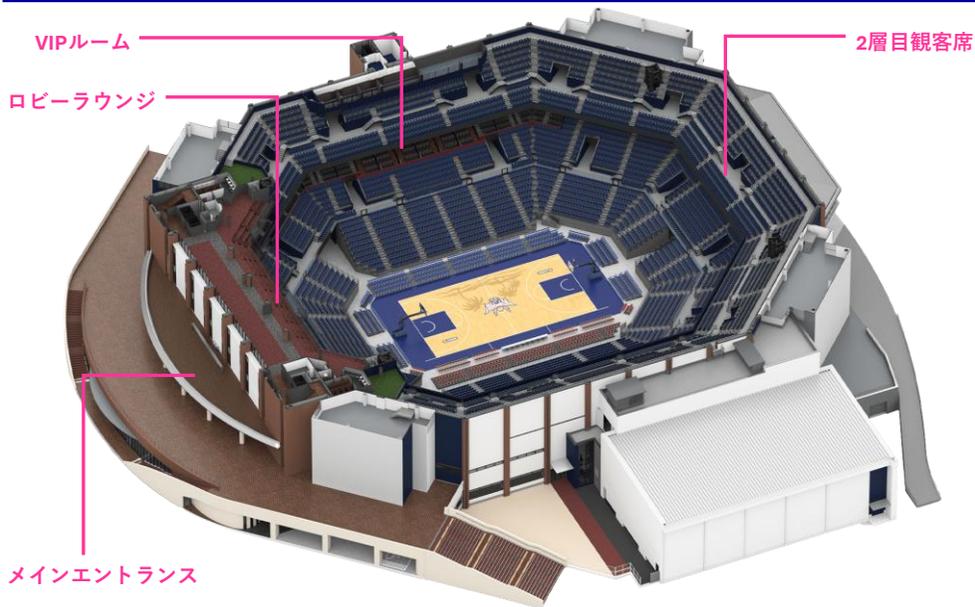
### 施設概要

事業手法: ECI方式+指定管理者  
竣工: 2021年  
敷地面積: 約215,900㎡(公園面積)  
延床面積: 約27,700㎡  
駐車場数: 約1,000台(周辺共用含む)  
主要機能: メインアリーナ、サブアリーナ、VIPルーム、コートサイドラウンジ、ショップ  
整備費(実績値): 約162億円  
工事費単価反映試算: 約285億円  
施設管理運営者: 沖縄アリーナ株式会社  
ホームチーム: 琉球ゴールデンキングス  
スポーツ以外の用途: コンサート・ライブ、展示会、企業イベント、コンベンション

### アリーナまちづくりの特長・ポイント

スポーツ以外にもコンサートやMICE(国際会議等)に対応し、最先端ICTの活用や飲食・VIPルームの充実により、試合がない日も地域経済を潤す交流拠点を目指している。  
災害時には救援物資の集積・搬送をスムーズに行う防災拠点としての機能を備えつつ、地元の観光協会や企業と連携したイベント展開により、沖縄市全体の賑わいとシビックプライドを醸成します。

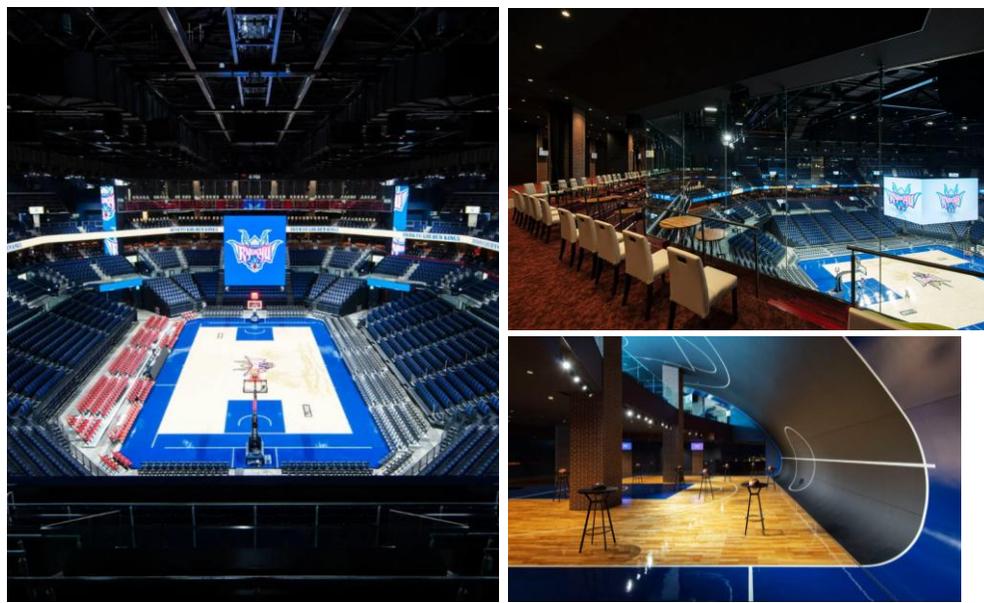
### 施設構成



### 外観写真



### 内観写真



## 5. 近年のアリーナの整備事例

### ③ 沖縄サントリーアリーナ(沖縄アリーナ)(スポーツゲーム8,000~10,000席規模)

#### 【アリーナまちづくりの特長・ポイント】

##### ■ 市民に開かれたアリーナの活用

- 「地域共栄型のアリーナ」をコンセプトに、メインアリーナ・サブアリーナをはじめとする様々な諸室を活用し、子ども向けのスポーツ教室の開催、地域交流、教育分野連携（模試会場としての利用）等を多数実施
- 地域文化の振興と若者の活動支援の一環として、沖縄全島エイサーまつりに参加するエイサー団体へ練習場を提供

##### ■ Park-PFIによる民間開発の誘導

- アリーナ整備による人流の増加等を背景に、沖縄市コザ運動公園Park-PFI事業として、民間投資によりホテル・コンビニ・駐車場等を整備

##### ■ 無料シャトルバスの運行によるコザ地区への周遊誘発

- ホームゲーム開催日に中心市街地のコザ地区とアリーナを結ぶシャトルバスを運行し、試合観戦後の中心市街地での飲食・滞在を創発

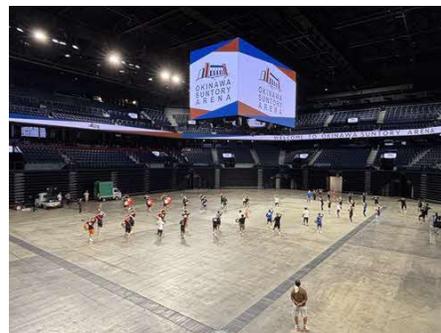
##### ■ 防災拠点機能

- 県の広域物資拠点（一次拠点）に指定され、大規模災害時等における支援物資の輸送拠点として機能

##### ▼Park-PFI事業で整備されたホテル・コンビニ



##### ▼エイサー団体の練習



##### ▼子どもスポーツ教室



##### ▼周辺地図（出所：google mapより）



(出所) 沖縄アリーナ公式HP、沖縄県資料等を基に作成

# 5. 近年のアリーナの整備事例

## ④ SAGAアリーナ(スポーツゲーム8,000~10,000席規模)

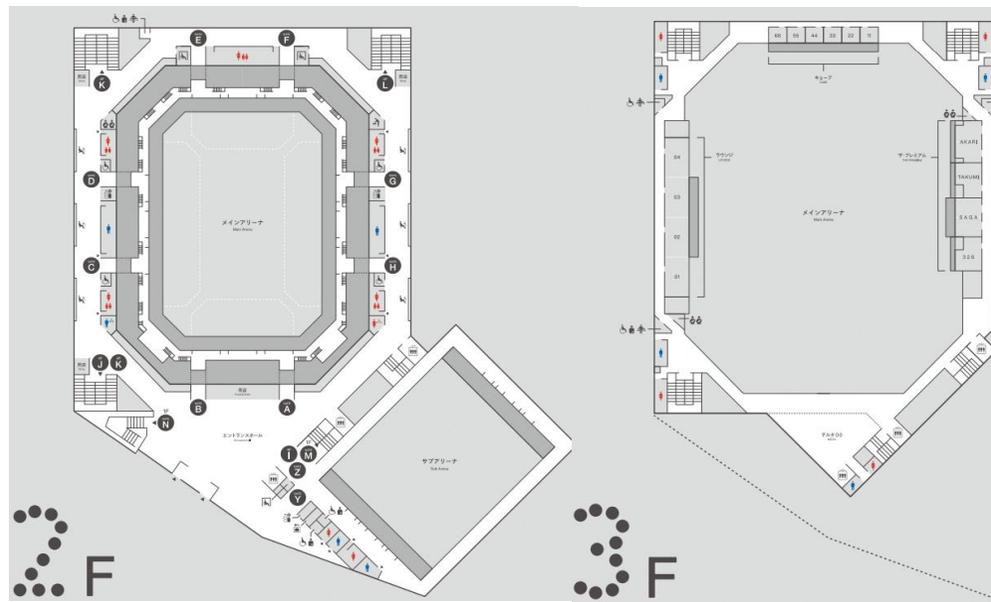
### 施設概要

事業手法: 従来方式/指定管理  
竣工: 2023年  
敷地面積: 約164,700 m<sup>2</sup> (公園面積)  
延床面積: 約29,800m<sup>2</sup>  
駐車場数: 約1,350台(周辺合算)  
主要機能: メインアリーナ、サブアリーナ、ラウンジ、ザ・プレミアム(VIPルーム)  
整備費(実績値): 約257億円  
工事費単価反映試算: 約375億円  
施設管理運営者: 株式会社SAGAサンシャインフォレスト  
ホームチーム: 佐賀バルナーズ  
スポーツ以外の用途: コンサート・ライブ、展示会、企業イベント、アイスショー

### アリーナまちづくりの特長・ポイント

佐賀駅からアリーナまでの「サンライズストリート」を再整備し、カフェや休憩スポットを配置することで、観客が街歩きを楽しみながら移動し、周辺店舗へ立ち寄る仕組みを構築している。単独の施設ではなく、陸上競技場や水泳場を含む公園全体を「SAGAサンライズパーク」として一体整備。パーク内の広場やオープンな空間を活用し、イベントがない日も市民が日常的に集える場を提供。

### 施設構成



### 外観写真



### 内観写真





# 5. 近年のアリーナの整備事例

## ⑤ 有明アリーナ(スポーツゲーム10,000~15,000席規模)

出典:有明アリーナ・東京都ホームページ

### 施設概要

事業手法: DB+コンセッション

竣工: 2019年

敷地面積: 約36,600㎡

延床面積: 約47,200㎡

駐車場数: なし(公共交通機関推奨)

主要機能: メインアリーナ、サブアリーナ、BOX席、レストラン・カフェ、トレーニング室

整備費(実績値): 約370億円

工事費単価反映試算: 約637億円

施設管理運営者: 株式会社東京有明アリーナ

ホームチーム: 東京ユナイテッドバスケットボールクラブ

スポーツ以外の用途: コンサート・ライブ、コンベンション

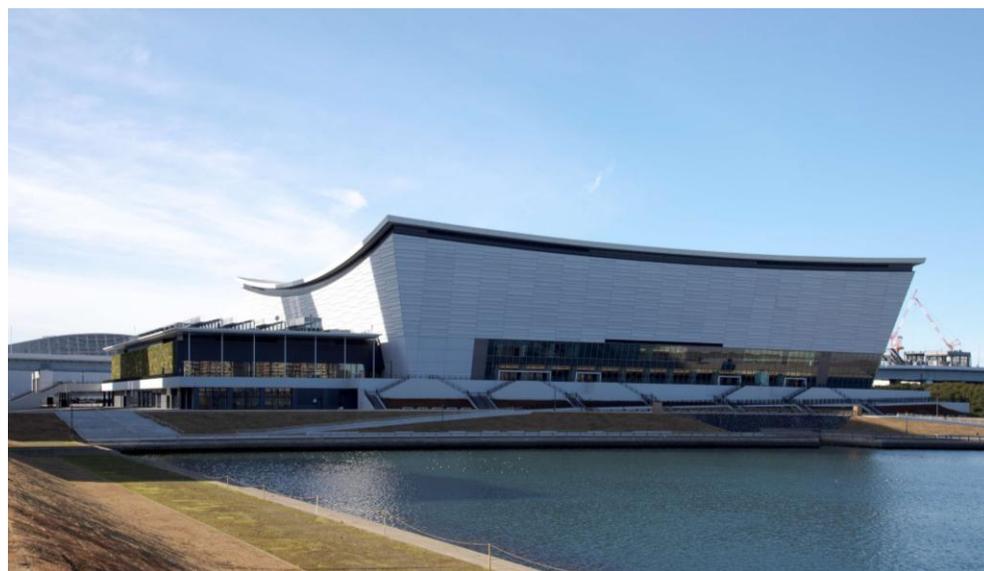
### アリーナまちづくりの特長・ポイント

周辺の有明テニスの森や有明ガーデン等の商業施設と連携し、イベント前後も滞在を楽しめる「面」での賑わいを生み出し、臨海副都心エリア全体のブランド向上に寄与している。屋内メインアリーナの興行利用だけでなく、サブアリーナやトレーニングルーム、レストランを一般開放することで、イベントがない日も市民がスポーツや食事を楽しめる日常的な交流の場を提供。

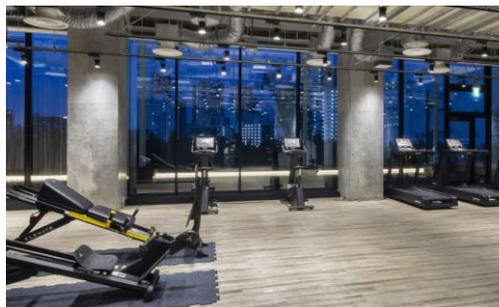
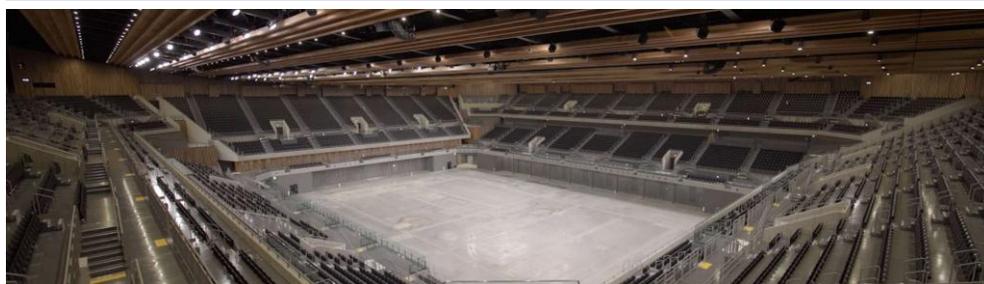
### 施設構成



### 外観写真



### 内観写真



# 6. 関連まちづくりの動向

- 徳島新未来創生総合計画の17の施策のなかで、魅力度UPの項目に、新アリーナの整備が大きく貢献できる可能性がある。
- 観光立県の側面においては、何度でも行きたいと思える魅力的な場所・機会が創出されることを目標とされている。

## 徳島新未来創生総合計画

県政運営計画にあたるもの。基本理念を「未来に引き継げる徳島」の実現とし、目指すべき将来像として「ずっと居りたい」「いつも帰りたい」「みんな行きたい」と感じていただける徳島県の実現を目指すとしている。下記の17の戦略を掲げている。

ミッション	戦略（ミッションを達成するための政策群）
安心度UP	1 徳島新未来創生に向けた教育再生
	2 一人ひとりが自分らしく輝ける社会づくり
	3 切れ目のない子育て支援をはじめとした「こどもまんなか社会」の実現
	4 グリーン社会の構築
	5 健康づくりの推進と医療・介護・福祉の充実
	6 危機管理体制の充実と県土強靱化（レジリエンス）の推進
	7 県民生活の安全・安心確保
魅力度UP	8 観光立県の推進～徳島観光復活ビッグバン～
	9 文化芸術の振興
	10 スポーツ立県の推進
	11 攻めの農林水産業
	12 地域経済を牽引する企業の成長と新産業の創生
	13 労働力・後継者不足対策の推進
	14 国内外から選ばれる魅力的な地域づくり
透明度UP	15 開かれた県政運営の推進
	16 時代のニーズに対応する県政運営体制
	17 持続可能な財政運営の推進

### 戦略8 観光立県の推進～徳島観光復活ビッグバン～ ※一部抜粋

#### 目指すべき将来の姿

- 空路では、徳島阿波おどり空港において、国際線や国内線ともに路線が充実し、陸路ではリニア中央新幹線の新大阪への延伸時期をターゲットとして、四国の新幹線が開業し、海路ではクルーズ船やスーパーヨット※が寄港するなど、利便性が飛躍的に向上しています。
- 自然・歴史・文化などの洗練された観光資源に加え、数多く開催されるトップレベルの競技大会やプロスポーツ、コンサート、国際会議等、誰もが「何度でも行きたい」と思える魅力的な場所・機会が創出され、国内外からのたくさんの人出で賑わっています。
- 質の高いサービスを提供する宿泊・観光施設の増加、おもてなし力の向上、観光DXの推進により、観光産業の生産性・収益向上、従業員の待遇改善が図られ、「稼げる産業」へと変革しています。

#### 課題と現状分析

- 徳島阿波おどり空港には国内LCC、国際定期便が運航されておらず、四国への新幹線は「整備計画路線」への格上げが先延ばしにされている。
- コロナ禍で大きく減少した観光者数はインバウンドも含め回復傾向にあるものの、繁忙期と閑散期で観光者数の変動が大きいこと等により、本県の観光消費額は他都道府県と比べても低い状況。
- 宿泊施設の客室数の少なさ等により、大規模イベントや大型MICE※開催時には他県に旅行者が流れており、宿泊キャパシティの拡大など受入体制の整備が求められています。

#### 施策の方向性と実現に向けた具体的な取り組み

- 国内外との動線確保
  - エアポートセールスの推進、四国への新幹線実現に向けた国への要望活動・機運醸成の推進
- 高付加価値なコンテンツの充実
  - 高付加価値なコンテンツ整備
  - 観光施設の魅力向上
  - プロスポーツチームとの連携：交流イベントの開催及びホームゲームへの招待
  - イベントの磨き上げ（「とくしまマラソン」、「アニメ」「eスポーツ」等を活用したイベント）
- 持続可能な観光地づくり
  - 宿泊施設の誘致
  - 施設のブラッシュアップ
  - 寄港地観光の拠点整備の推進
  - アリーナ整備に向けた取り組み（当PJ）
  - DMOと連携したみなみ阿波独自のウェルネスツーリズムの推進
- 国内外への情報発信の強化と本県の認知度向上
  - 国際MICEの誘致促進
  - クルーズ船・スーパーヨットの誘致活動の促進（徳島小松港）

## 6. 関連まちづくりの動向

- 県内外から目指される拠点を作るにあたって、伝統文化との融合もひとつの着眼点となる。
- スポーツ立県の推進に向けた具体施策として、国内外からのスポーツ大会や合宿の誘致が掲げられている。

### 戦略9 文化芸術の振興

※一部抜粋

#### 目指すべき将来の姿

- あわ文化の継承・発展・創造の努力がたゆみなく続けられ、阿波藍、阿波人形浄瑠璃、阿波おどりなどの伝統文化や様々な芸術文化が息づく、魅力ある地域が育まれています。
- あわ文化の魅力が国内のみならず海外にも広く認知され、多くの人々が継続的に本県を訪れ、その魅力と感動を県民とともに共有しています。
- 地域の宝である文化財が、魅力ある地域資源として、国内外で認知が広がるとともに、県内各地において、「県民総ぐるみ」による保存・継承が進み、観光振興をはじめ活力ある地域づくりに活かされています。

#### 課題と現状分析

- 加速度的に進む人口減少や少子高齢化は、特に地域の文化コミュニティに多大な影響を与え、文化芸術・伝統文化の担い手不足が進んでいます。
- 大阪・関西万博の開催を絶好の機会と捉え、地域の宝である文化財や本県の多彩なあわ文化について、世界を視野に入れた戦略的な魅力発信に取り組む必要があります。また、誰もがいつでもどこでも楽しく学べる文化の森となるよう、利便性や魅力度の更なる向上が求められています。
- 本県ならではの文化や文化財の価値が国内外で認知され、未来に向けて確実に保存・継承するとともに、世界遺産登録に向けた取組を進め、地域の文化資源をまちづくりへ活用することが求められています。

#### 施策の方向性と実現に向けた具体的な取り組み

- ①あわ文化の継承発展による地域活性化
  - あわ文化の継承発展への支援と魅力発信
  - 新ホールの整備
  - 文化の森総合公園における魅力発信
- ②世界遺産登録への挑戦
  - 世界遺産登録に向けた資産価値・魅力の発信
  - 「世界の記憶」登録に向けた文化的価値の発信
- ③文化財等の保存活用の推進
  - 文化財の公開・活用
  - ボーンベッド（勝浦町の国内最古級恐竜化石含有層）の発掘・発信

### 戦略10 スポーツ立県の推進

※一部抜粋

#### 目指すべき将来の姿

- 性別・年齢・障がいの有無、地域事情等に関わらず、自分のライフスタイルや興味に応じてスポーツに取り組むことができる環境が整備され、誰もが生涯にわたって気軽にスポーツを楽しめる、生涯スポーツ社会が実現しています。
- 世界で活躍するトップアスリートが育ち、国際大会や全国大会におけるアスリートの活躍が、県民に夢と感動を与えるとともに、スポーツへの関心を高め、活力ある地域社会が創造されます。
- スポーツを通じた交流人口の拡大や地域活性化とともに、地元プロスポーツチームの活躍による地域の連帯感の強化、スポーツ環境の整備によるにぎわい創出等が図られています。

#### 課題と現状分析

- 本県の糖尿病による死亡率は高い状況が続いており、日常的にスポーツに参加できる機会が必要となっています。
- 国際大会に日本代表として出場する本県ゆかりの選手・指導者が少なく、ジュニア期からの発掘・育成と成年期にかけて継続した強化、指導者育成が必要となっています。
- 近年、スポーツ資源を活用したスポーツツーリズムが注目されており、地方創生の起爆剤として大きな期待が寄せられています

#### 施策の方向性と実現に向けた具体的な取り組み

- ①スポーツ力の向上
  - スポーツイベントの実施
  - 競技力の戦略的強化
  - 競技団体への医科学的サポート
- ② スポーツ環境の向
  - スポーツ環境（ファシリティの充実）
  - オロナミンC球場内野スタンド全面改築
- ③スポーツ振興によるにぎわいづくり
  - 国内外からのスポーツ大会・合宿誘致、国際交流の実施
  - 「ワールドマスターズゲームズ2027関西」の開催

# 6. 関連まちづくりの動向

- 計画地にほど近い徳島小松島港において、産業拠点の整備が目指されるなど、今後のポテンシャルが期待される地域である。
- 魅力的な地域づくりのための施策として、既存ストックの活用等が重要視されており、徳島東環状線高架下の活用も位置づけられています。

## 戦略12 地域経済を牽引する企業の成長と新産業の創生

※一部抜粋

### 目指すべき将来の姿

- 光関連分野、ICTや環境・エネルギー、蓄電池等の先進的分野の企業や研究開発機関の集積、人やモノ等が行き交う拠点整備が進むとともに、時代のニーズに応える事業展開、オープンイノベーション※での企業連携が活発となり、新産業・新サービスの創出やグローバル展開が図られています。
- 地域産業においては、世界の成長力と融合して進化し、新たな価値を次々と生み出すことにより、賃上げや雇用につなげ、更なる投資を促進する好循環を生み出すとともに、早期の後継者確保の動きや、オープンネーム型のM&A、移住、起業の手段としての承継が活発化し、円滑な事業継承が進んでいます。
- 学びやチャレンジできる環境が充実する徳島では、起業家やスタートアップ企業が次々と誕生し、地域内外からイノベーションを生む多様な人財・知・産業が集積する好循環が生まれています。

### 施策の方向性と実現に向けた具体的な取り組み

#### ①地域産業の持続的発展

- 県内企業の海外展開を促進（官民一体の「地域商社」や民間企業と連携した県産品のブランディング、「観光・食・文化」の一体的プロモーションなど、県産品の国内外への販路開拓や県内企業の海外進出を支援。）
- ものづくり企業のDX/GX推進
- 県内企業のイノベーションの推進（フードテックなど）
- M&Aをはじめとした事業承継の推進

#### ②地域産業を支える交通インフラ整備の促進

- 産業拠点となる企業用地等の整備（徳島小松島港津田地区）
- ポートセールス・岸壁延伸

#### ③新たな産業とスタートアップの創出

- 徳島バッテリーバレイ構想の推進
- イノベーション・エコシステム形成
- プラットフォームによる創業支援
- 最先端研究からの社会実装・人材育成の支援
- 立地優遇制度を活かした企業誘致

## 戦略14 国内外から選ばれる魅力的な地域づくり

※一部抜粋

### 目指すべき将来の姿

- 豊かな自然、伝統文化や食などの「本県の魅力」が最大化されつつ、大切に継承されるとともに、活力ある中心市街地の形成や、デジタル技術が実装されたスマートシティの構築が進むことにより国内外から注目を集め、「世界から選ばれる徳島」になっています。
- 徳島と強い絆で結ばれ、シビックプライドを有する「徳島ゆかりの人材」が国内外にあふれるとともに、地域との関わりを深めることにより、課題解決や魅力向上が実践され、地域の活力を創出しています。
- 県内の様々な地域において、最適化された多様な移動手段が連携され、利便性の向上と利用促進の好循環が生み出す持続可能な公共交通ネットワークが構築されています。

### 課題と現状分析

- 労働力不足や過疎化が進行→中心市街地周辺はじめ、まちのにぎわいや社会経済活動が低下し、地域を支える様々なサービスの縮小が懸念。
- 空き家や高架下をはじめとした社会インフラ等、既存ストック活用
- バスや鉄道等の地域公共交通は維持・存続が困難になっています。
- 心豊かな暮らしを送ることができ、持続可能で活力ある地域づくり→多様な主体による連携・共創やデジタル技術の社会実装＝地域の個性を活かしながら地域課題の解決と県民サービスの向上。
- 徳島が有する「多様な魅力」を発信＝徳島ゆかりの人材の発掘をはじめ、県人ネットワークの更なる充実・強化、シビックプライドの醸成。

### 施策の方向性と実現に向けた具体的な取り組み

#### ①持続可能で魅力的なまちづくり

- 商店街活性化への支援、サテライトオフィス等の集積加速
- 居心地が良く歩きたくなるウォーカブルなまちづくりの推進
- 徳島環状線高架下空間の有効活用
- 空き家転用への支援、相談体制整備や需要の掘り起こし等の推進

#### ②移住・二地域居住の促進

- 移住支援策の推進、若者の定住・Uターン促進
- アワーケーションの誘致促進

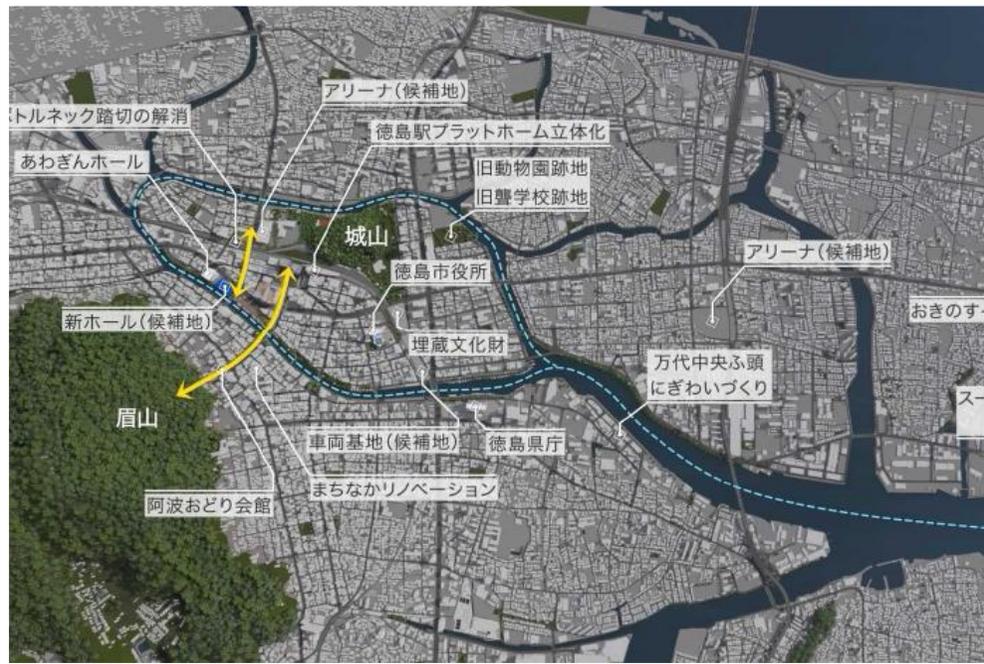
#### ③県民主役の協働・共創による地域づくり

#### ④国内外から徳島とつながる絆づくり

- ⑤ ストレスフリーな公共交通
- 公共交通ネットワークの充実
- 公共交通の利用促進に向けた新たな需要の創出

# 6. 関連まちづくりの動向

## 県都のグランドデザイン



## 徳島東環状線の整備と高架下利活用

- 徳島外環状道路の東側部分の工事が進行中。
- R8年度中に2車線での供用開始予定、R10年度に最終4車線開通予定。

計画地区間  
にぎわい交流ゾーン

地域交流ゾーン

学習交流ゾーン

第1期区間 約230m

一部区間において、すでに高架下が道路占用許可申請により利活用が可能。  
出所：徳島東環状線工事状況 | 徳島県ホームページ、徳島環状線高架下が「広場」として利用できます！

## ひょうたん島川の駅ネットワーク構想(令和5年6月)

- 水都とくしまを象徴する「ひょうたん島エリア」から近年は「ベイエリア」や「北部エリア」まで拡大する川のネットワークである。
- 対象地近くでは、「南末広棧橋」が川の駅としてネットワークの一部を担う。
- 構想の中で、現状課題からテーマ・取組方針が掲げられている。

### 現状課題

- 認知度や情報が不足している
- 利用に課題(障害)がある
- 将来を見据えた川の駅ネットワークを検討する必要性が高まっている

### テーマ

- 誰もが知っている川の駅ネットワークづくり
- 誰もが楽しめる川の駅ネットワークづくり
- いつまでも続く川の駅ネットワークづくり

### 取組方針

情報発信の充実・強化  
 船着場の周知等  
 新たな楽しみ方の創出  
 利用者への楽しみ方の提案  
 各駅をつなぐことによるネットワークの活性化  
 子どもの利用拡大(学校連携)  
 環境分野との連携  
 利用者の確保及び拡大  
 推進体制の充実  
 官民連携の充実

【ベイエリア】

A 万代中央ふ頭棧橋:P6

B 南末広棧橋:P6

C マリンピア沖洲棧橋:P6

D アスティとくしま棧橋:P6

### スタジアム・アリーナ改革ガイドブック<第3版> (令和7年6月 スポーツ庁・経済産業省)

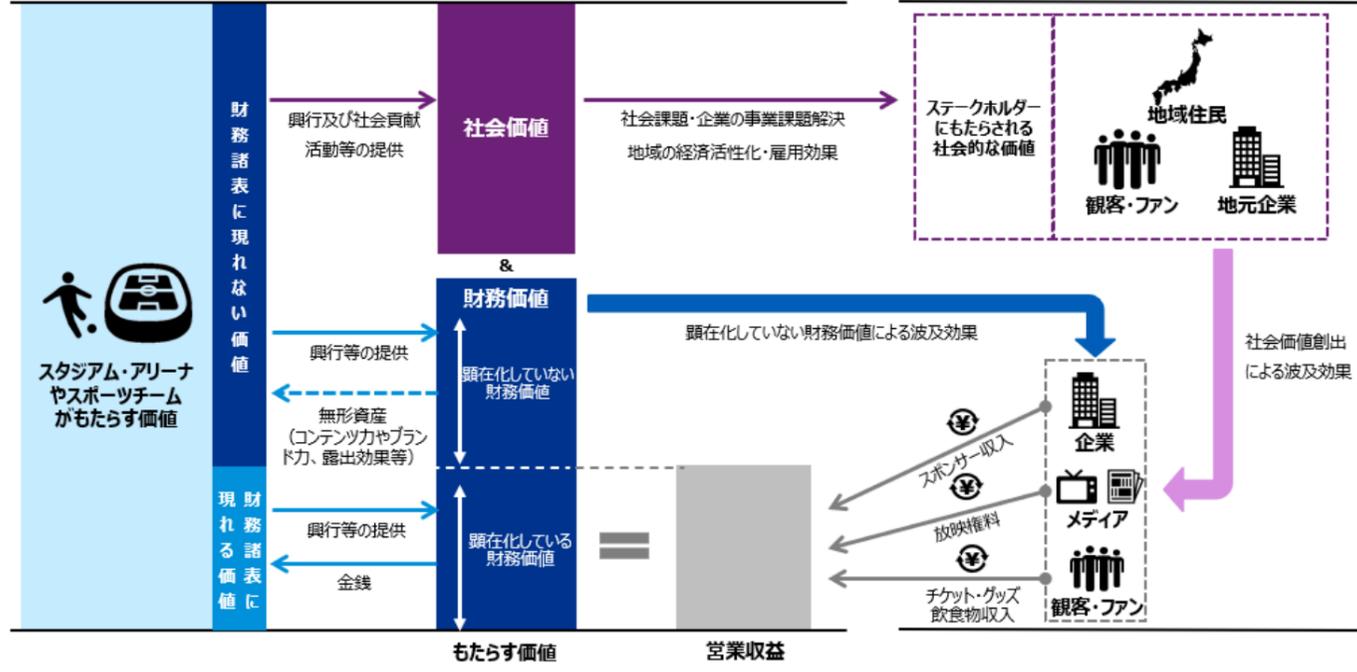
～スタジアム・アリーナやプロスポーツ等を活用したまちづくり・地域活性化とエリアマネジメントの充実、  
スポーツコンプレックスの推進を目指して～

#### ■求められる考え方と姿勢

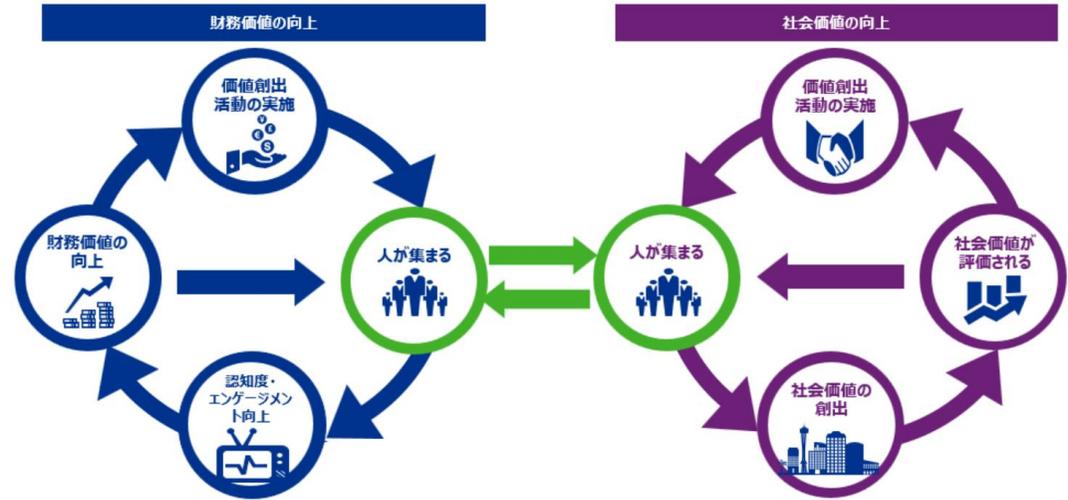
- みるスポーツの潜在力を最大限発揮し、スポーツがもたらす価値を高めることのできる、観客を意識した施設の重要性
- スポーツに閉じない多様な利用シーンの実現、多様な顧客(利用者)が集う場づくりによる、収益性の向上や地域経済の活性化、都市のコンパクト化への貢献、地域・都市のシンボルとしての成長
- スタジアム・アリーナ単体ではなく、他の施設やインフラ整備等との連携、スポーツ間の連携を含めた、十分なエリアマネジメントにより相乗効果を発揮するためのまちづくり(スポーツ コンプレックスの考え方)の重要性
- メインコンテンツとなるスポーツコンテンツの強化と、施設とスポーツチーム(ハードとソフト)の一体的な運営の重要性
- 地域・都市の中長期的な課題や将来像、社会や技術の変化等を踏まえた、スタジアム・アリーナの意義やコンセプト、ありたい姿の検討、環境対策や持続可能性を踏まえた対応
- 適切な官民連携、多様なステークホルダーの参画・連携による取組の重要性
- 前例や固定概念に囚われない、思考や取組の重要性

# 7. アリーナの動向

スタジアム・アリーナやスポーツチームがもたらす価値の全体像



価値の向上が相互に循環するイメージ



出所:スタジアム・アリーナ改革ガイドブック<第3版> (令和7年6月 スポーツ庁・経済産業省)